

八東郡	寒	枯	風害海岸部にありも被害少し	安濃郡	風	害	海岸部三十町歩
能義郡	霜	害	寒枯全右 山間部に霜害あり被害何れも 少し	邇摩郡	風	害	海岸部に多し 風害は處により三割以内の被 害
仁多郡	霜	害	例年二三割被害燻煙法を行ふ	邑智郡	水	害	霜害は山間部 水害は郷川沿岸被害少し
大原郡	凍	害	被害大ならず	那賀郡	霜	害	風害は海岸部 霜害は奥部被害大ならず
飯石郡	霜	害	通例一割内外の被害	美濃郡	霜	害	奥部にあり
簸川郡	霜	害	風害及寒枯は海岸部 霜害は山間部	鹿足郡	霜	害	被害五分乃至一割五分平年一 割内外
				隱岐國	風	害	収葉量に大影響なし

即ち各郡共山間部にては幾分の霜害なき處なく又海岸部に於て風害及寒枯等の被害を受けつゝあり其防除法としては仁多郡の一部に燻煙法を行ふ處あるに過ぎず
右主なる災害に就き其防除法を略述すべし

(一) 凍害 「普通霜害と稱す」

春期桑芽の將さに開綻嫩芽の伸長せんとする頃不時の寒冷の爲め零度以下に降る時は桑芽は凍死し著しき惨害を蒙るものにして大氣の乾燥せる場合に其害甚しきを常

とす

而して多くは天氣晴朗なるの夜俄かに氣温低下し結霜せる時に多きを以て從來霜害となし所謂「八十八夜の別れ霜」と稱する晩霜を最も恐れしが事實此頃の害最も多し尙從來霜害は霜の融解急激なるに因るものとなし朝日の早く直射する場所に多しとなせり是れ一理ありと雖かゝる地の桑樹は多くは生長旺んにして樹質軟く抵抗力弱きに因るとの説多し

假令結霜を見ざるも發育せる桑芽が甚しき氣温の冷却に接觸する時は傷害を蒙るものなり而も燕口より一二葉開きし頃被害最も大なり一般に冷氣の沈降し長く停滞する谷間の低地に被害最も多く平地之に亞ぎ高地は少きを常とす殊に河岸、海岸等は殆ど此害を蒙る事なし

尙は凍害の多少は砂土に多く粘土地に少きが如し種類に於ては一概に言はれざるも市平、多胡、小牧、美濃魯桑、赤木、小幡等は抵抗力弱く高助、鶴田、四方咲、飛源桑、八平次強きが如く柳田は再發芽速かなるの特長を有し發芽甚だ遅き晩生桑は害を受くる事少く十文字は此害少きも山地には適せざるを常とす去る大正三年の凍害にては小牧、多胡等最も被害多く赤木は少かりき

仕立法に於ては根刈桑最も被害多く中川高刈等順次軽く凡て地面に近き部分の被害

大なるを常とす

栽培法に於ては凍害數日前に耕耘を行ひしものは被害大なるを常とし窒素質肥料を
濫用し其他凡て軟弱なる發育をなせる桑樹に害多し

「凍害豫知法」

凍害豫防の手段を講ずるに先ち先づ凍害豫知をなすを要す

豫知法　は種々あるべきも天空澄み渡り大氣乾燥し風なき夜に於て日没頃より
温度順次低下し午后十時頃攝氏三乃至五度となり倍々低下するを示し夜半零度近く
に達するに至りし場合は危険なりとして誤少かるべし

「凍害豫防法」

(イ) 燻煙法　桑園の處々に松、杉の生葉、糠殻、鋸屑、落葉、藁稈類の如き燃料を用
意し置き凍害を豫知せば点火し時々水を注ぎて煙中に水蒸氣を含ましめ濃煙を桑

園に襲かしめ以て全園を覆ふが如くし翌朝に及ぶべし

(ロ) 覆蓋法　桑園上に柵を設くるが如き適當の設備をなし蒺藋類を張り以て桑樹
を被覆するにあり温度低下甚しきは燻煙法を併用すれば効大なり

(ハ) 包被法　桑樹を一株毎に蒺藋類を以て包被する方法にて手数を要すれども
効果大なり

(ニ) 灌漑法　灌漑の便ある桑園にては桑園一面に灌水し絶へず空氣を濕潤ならし

むべし

(ホ) 清水撒布法　結霜を豫知せば唧筒を以て清水を桑樹に撒布すべし

(ヘ) 凍害多き地方は稚蠶用桑園は之を被害少き地に特設し又は密植して面積を減ト覆
蓋法、包被法の如き確實なる豫防設備を施すべし

(ト) 雑草の除去に努め間作を避け凍害の誘發を豫防し又解束を遅くすべし

(チ) 其他種類の選定及仕立法其他栽桑法等に注意すべし

(リ) 凍害多き地方にありては豫防組合の如きものを設け凍害豫報の設備をし又常に豫
防上の用意をなし置き以て有事の時共同し一舉に豫防方法を施行すべし

「凍害善後策」　一朝凍害を蒙らんか直ちに養蠶上甚大の影響を及ぼすを以て速

かに善後の良策を講ずるを要す其法は一に被害程度に應トて適法を撰ぶを可とす
葉の周邊嫩芽の一小部を害せられたるが如き被害最も輕きものは直ちに耕耘を行ひ
速効肥料を施し發芽を促進すべし

新芽の生長点若しくは嫩芽のみ害せられたるが如き場合は被害部を摘去する時は副
芽の伸長速かにして收葉を多からしむるを常とす

全芽又は枝條の凍死せるが如き被害甚しきものは伐採し夏秋蠶用に供するを可とす
伐採は被害后五六日頃を適當とし遅るべからず

「参考」 元東京蠶業講習所に於ては凍害桑樹の再發芽に對する刺戟劑に付試験し桑苗一本(二年生)に付〇、〇一〇瓦乃至〇、〇一五瓦の礬砂を施す時は發芽を促進せしむるの効ありしといふ

(二)「風 害」

本縣に於ける風害は殆ど海岸部に限られ其被害も常時甚しからざるも偶々思はざるの害を被るなしとせず

被害の時期は年によりて異なるも通常春期開葉時期及秋期八月下旬乃至九月上旬に最も多し被害程度は時期及風力によりて異なるも未だ大被害を受けし事稀なり

被害の状況は春期幼芽及嫩葉を揉みて黒變せしめ又枝條の磨擦によりて芽を枯死せしめ秋期に於ては葉は揉摺せられ周邊は黒變萎凋し又は裂け遂に蠶兒飼育に適せざるに至り甚しき時は梢端を挫折す山間部の立木は爲めに枝幹を折傷することあり

「豫防及善後策」 暴風の襲來多き地方は防風林を設置し又風に強き種類を撰びて植付くべし甲撰、鶴田、十文字、九紋龍等は風害を受け易きが如く魯桑、ハッ房、市

平等は強きが如し又風害多き地方は稍密植の深植となし栽植當時は支柱を立つべし

被害後は速効肥料を施して發育を促すを可とし春期甚しき害を被りたるものは伐採するを可とす

(三) 寒 害 (寒 枯)

寒枯の被害は多くは海岸部にして其害は風害より多く年によりては梢端一二尺を枯死せしめ所謂梢枯うらかとなり著しく收穫を減することあり而も秋蠶飼育の勃興に隨ひ倍々被害多くなるの傾向あり

安濃郡海岸、大根島、那賀郡東部、海岸等最も被害多きが如し山間部に於ても稀に枝枯又株枯を生ずることあり仁多、飯石奥部に於て往々見る事あり

「豫防及善後策」 桑樹の種類によりて抵抗力に甚しき差あるが如し即ち十文字は最も害多く鶴田之に亞き化桑、魯桑、元右衛門も餘り強からず赤木、市平、根小屋、小牧等は強きが如し

(地方によりて一様ならずして十文字最も強く鶴田も亞いで強き種類なりと稱する府縣あり)

されば種類の撰擇に注意すべし 仕立法に於ては根刈に多く中刈、高刈順次少きを常とす山間部にて根刈桑樹の株枯

を生ずる地方は中刈又高刈に改むべし
 肥培法によりて被害の輕重あり一般に過度の施肥、速効肥料の濫用をなし過大軟弱の發育をなさしめ殊に夏肥を遅れ秋肥をなす等秋出來をなさしめ或は秋期過度の摘採を行ふものは被害頗る多し故に此等につき常に注意するを肝要なりとす而して肥料配合に注意し磷酸、加里を多く施與し窒素を節し専ら枝條の堅實なる發達をなさしむべし
 根刈桑の株枯を生ト易き地は冬期株元に盛土し置くべし
 梢端枯死せる所謂梢枯うかれとされるものは三月中頃に於て被害部下一二寸の處より剪去し肥培に努むるを最も可とす被害甚しきものは伐採するの外途なし

第八 收穫

收穫は桑樹栽培の結局の目的にして肥培管理に盡すは畢竟良質の桑葉を多量に收穫せんと欲するに外ならずして收穫量の多少は桑園經濟に至大の影響を有するものなり
 然れども桑樹は他の一年生作物と異り毎年同一桑樹を伐採し且つ收穫するが故に收穫は桑樹の發育に多大の損傷を與ふるものなりされば桑樹は常に十分なる保護を加

へ過度の收穫を避け節度なき濫採に陥らざる様注意する事亦極めて肝要なりとす
 養蠶の普及發達に伴ひ近時桑園の荒廢愈々甚しく其原因多々ありて肥培管理の不行届及不十分なる元より其主なる事なるべしと雖も亦以て收穫の過度に失する事殊に夏秋蠶期に於ける苛酷なる摘葉及其收葉法を過る事の如き亦主因なる事疑ふべからず故に桑園の荒廢を防ぎ改善を計らんには收穫に注意し桑園經營法の改良を行ふ事最も急務なりとす
 今縣下に於ける收穫の狀態につき概況を表示すれば左の如し

其一 收穫の概況

大正三年四月調査

收穫の時期及回数並に其程度、方法

島郡	春	夏	秋	蠶	期
隱岐	稚蠶中は摘葉 壯蠶期伐採	摘葉。程度平均四割位			
入東	四齡頃迄は摘葉以後は伐採收葉	處により程度約五割			
能義	稚蠶中は摘葉伐採 壯蠶期伐採	摘葉 程度約五割			
仁多	春蠶主用は春蠶壯蠶期伐採 夏秋蠶用發芽前伐採	五六割摘採 八九割摘採			
大原	秋蠶主用は秋蠶壯蠶期伐採 第三令又は第四令迄摘採 第五令又は第四令以後伐採	夏期間引十貫乃至十五貫 秋期秋蠶初期は成るべく摘採を少からしめ后期(晩秋)には幾分多からしむ二回にて收葉量百五十貫乃至二百貫一回採立のものは前後期の中間にして收葉量幾分少し			

石	稚蠶期には摘採をなすも多量を要するに及びては根刈又は枝條を伐採(高刈)す	夏秋蠶の發達と共に此兩蠶に摘採するもの増加せしも桑園荒廢の恐あるに於て其矯正を爲め枝條の間引を行ひ之を用ふるものあるに至れり
川	稚蠶期は摘採又は芽摘を行ひ壯蠶期伐採收穫す	七月下旬より九月下旬に至り二回摘採するを普通とす銀杏摘を奨励するも秋蠶の盛なる地方は全葉摘にて梢頭四五葉を残すに至る迄摘採す
安	稚蠶期は摘採壯蠶期伐採	第一回秋蠶中七八割摘採す 第二回秋蠶中七八割摘採す
那	全部採葉後伐採す	初秋蠶期間引を行ひ約三分の二位の程度にて摘採す
美	六月上旬伐採	七月下旬乃至八月中旬早秋蠶用摘採。程度全葉数の二分の一八月下旬乃至九月下旬晩秋蠶用摘採。全葉数の三分の一
鹿	五月下旬刈取る	秋蠶には公孫樹葉摘さなし程度は四五割位とす
松	一二齡に早生摘採三齡に早生の残れるものを刈取り又發育不良なる枝條抜切をなし五齡期全部伐採す	程度少きは葉數三割多きは五割とす
江	伐採 平均收量 百貫	秋蠶期に幾分摘採す收葉量平均三十五貫

大正三年四月調
收穫の時期及方法並に其收葉量

氏名	春蠶		秋蠶	
	收穫の時期	方法	收穫の時期	方法
周吉郡東郷村 原 忠五郎	多胡は一令中。島村は二令又は三令の初期迄用ひ刈取れり中生桑は三令の盛食期より四齡迄收葉法は三四令初迄に前全様四齡盛食期伐採	三百貫余 (育蠶中各種合計)	専用桑園を有せず春秋兼用桑園なり	百貫位
海士郡海士村 村上 盛大	早生種は一、二齡、中生種は三齡に晩後伐採壯蠶中は伐採收穫	約百三十貫	中生種を摘採せり	約九十貫

氏名	春蠶		秋蠶		平均
	收穫の時期	方法	收穫の時期	方法	
知夫郡浦郷村 眞野治郎一	市平、多胡は稚蠶中收葉し赤木、魯桑、十文字は四五齡に刈取收葉す	二百五十貫内外	島村、魯桑、十文字の幾部は春刈を行ひ夏蠶専用として收葉す	専用二百貫内外 兼用七十貫内外	平均二百十貫
海士郡海士村 波部伊勢若	早生桑は摘取り中生桑は大葉物を摘取り小葉種は四齡中に抜き取り十文字は五齡中伐採收葉す	多胡 二〇〇 雲龍 一八〇 赤木 二〇〇 魯桑 一三〇 十文字 二〇〇	多胡(八月上旬及九月上旬)雲龍、赤木(八月中旬及九月上旬)魯桑、十文字(八月下旬及九月下旬)摘採す	多胡 二〇〇 雲龍 一三〇 赤木 二〇〇 魯桑 一三〇 十文字 二〇〇	多胡 三〇〇 雲龍 三〇〇 赤木 三〇〇 魯桑 四〇〇 十文字 三〇〇
八東郡波入村 竹谷寛三郎	多胡(五月初旬)雲龍、赤木(五月中旬)葉摘後刈取り魯桑(五月下旬)十文字(六月上旬)刈取る	多胡 二〇〇 雲龍 一八〇 赤木 二〇〇 魯桑 一三〇 十文字 二〇〇			多胡 三〇〇 雲龍 三〇〇 赤木 三〇〇 魯桑 四〇〇 十文字 三〇〇
二子村 安部貞太郎	多胡(五月中旬迄)摘葉後刈取 魯桑(五月下旬)伐採 十文字(五月下旬―六月上旬迄)伐採	多胡 二〇〇 魯桑 一三〇 十文字 二〇〇	各種摘葉(第一回、第二回)計第一回 二〇〇 第二回 一〇〇 計三〇〇	各種摘葉を通じ計第一回 二〇〇 第二回 一〇〇 計三〇〇	多胡 三〇〇 魯桑 四〇〇 十文字 三〇〇
尖道村 中田 金市	第三齡迄は摘葉し第四齡以後は伐採後摘葉す	三〇〇	梢端幾分を残して摘採す		三〇〇
佐太村 平塚九右衛門	市平(四月三十一日より五月五日迄)摘葉後 魯桑(五月中旬より六月上旬迄)十文字(六月上旬)に伐採收葉す	市平 四〇〇 魯桑 四〇〇 十文字 三〇〇	何れも(九月上旬迄)葉摘せり		市平 四〇〇 魯桑 四〇〇 十文字 三〇〇

能義郡廣瀨町	宇山由太郎	多胡は稚蠶中摘葉し後刈取 仲摩木、魯桑、十文字は伐採收葉	平均 二〇〇	摘葉	島村(八月中旬)赤木、魯桑實生(八、九月)魯桑、十文字(九、十月)摘葉	平均 二〇〇	島村 二〇〇 赤木 二〇〇 魯桑實生 二〇〇 十文字 二〇〇	島村 二〇〇 赤木 二〇〇 魯桑實生 二〇〇 十文字 二〇〇
荒島村	多久和房太郎	稚蠶中は早生摘葉、壯蠶期中晩桑伐採收葉	正業 平均 二〇〇	摘葉	秋期二回葉柄を残して摘取	平均 二〇〇	平均 二〇〇	平均 二〇〇
赤江村	遠藤和三郎	市平、島村は一、二、三齡迄に魯桑、十文字は四五齡に於て根刈す	平均 二〇〇	摘葉	八月下旬摘葉	約 一〇〇	約 一〇〇	約 一〇〇
母里村	稲田豊太郎	早生は稚蠶中(五月上旬)摘葉す 中生は五月中旬下旬伐採 晩生は六月上旬に伐採	早生 二〇〇 中生 二〇〇 晩生 二〇〇	摘葉	八月下旬摘葉	約 一〇〇	約 一〇〇	約 一〇〇
比田村	濱田清三郎	初め株の小枝及元芽元葉を摘採し後伐採收穫す	二〇〇	摘葉		約 一〇〇	約 一〇〇	約 一〇〇
仁多郡三澤村	永瀬嘉一兵衛	稚蠶中摘葉壯蠶期伐採	二〇〇	摘葉		約 一〇〇	約 一〇〇	約 一〇〇
阿井村	眞田長三郎	全	二〇〇	全 程度八割		約 一〇〇	約 一〇〇	約 一〇〇
龜蓋村	賀元虎三郎	全	二〇〇	全 程度八割		約 一〇〇	約 一〇〇	約 一〇〇
三成村	石原森次郎	赤木三四齡に摘葉後伐採 魯桑一二齡に摘葉後伐採	赤木 二〇〇 魯桑 二〇〇	全 程度八割		約 一〇〇	約 一〇〇	約 一〇〇
大原郡阿用村	岩田要三郎	第二齡又は第三齡迄は下部一尺位芽抜きをなし後伐採す	二〇〇	夏蠶間引 秋蠶は上部より漸次下方に螺々摘す なし晩秋に梢端五六葉を残し摘葉す		約 一〇〇	約 一〇〇	約 一〇〇
大東町	吉木甚五郎	第二齡迄は中部以下摘葉第三四齡は中部以下芽抜きをなし其残部を伐採す	二〇〇	夏蠶間引 秋蠶初めは中部以下を螺々摘す 晩秋には點々全葉を残して摘採す		約 一〇〇	約 一〇〇	約 一〇〇

轡屋村	勝部徳太郎	第二齡迄は上部を摘葉し第三、四齡は下部を芽抜きをなし又は伐採し第五齡は全部伐採收葉す	二〇〇	夏蠶間引 次下部に向つて螺々摘すなし晩秋に至り梢端五六葉を残して他を摘採す	秋夏 二〇〇	秋夏 二〇〇	秋夏 二〇〇
海湖村	森吉 新市	第二、三齡迄は上部を摘葉し第三、四齡以後伐採收穫す	二〇〇	夏蠶間引 初三分の一位を螺々摘す 三分の一位を残す夏秋蠶専用は残部を始と全部摘採す 夏間引 約五分の二を螺々摘す なし(晩秋)五分の一を螺々摘す	秋夏 二〇〇	秋夏 二〇〇	秋夏 二〇〇
飯石郡一宮村	坂本信太郎	第三齡又は第四齡迄は適宜摘葉し第五齡又第四齡以後伐採收穫す 稚蠶期は摘葉五月下旬より伐採し收穫す	魯桑 二〇〇 八日市 二〇〇 其他 二〇〇	八、九月摘葉	秋夏 二〇〇	秋夏 二〇〇	秋夏 二〇〇
掛合村	秦 大二郎	右全	二〇〇	八、九月摘葉	秋夏 二〇〇	秋夏 二〇〇	秋夏 二〇〇
志々村	安部 和重	第二、三齡は疎枝又は雜種を採取し四、五齡は赤木を伐採す 高刈(秋田式)桑園にして春刈せらるゝのは疎枝し夏伐りす	(植付后六年以上九年以下混合園) 二〇〇	葉柄を残して摘採す 八月初旬より九月下旬迄	秋夏 二〇〇	秋夏 二〇〇	秋夏 二〇〇
來島村	戸谷茂一郎	未詳	二〇〇	葉柄を残して摘採す 八月初旬より九月下旬迄	秋夏 二〇〇	秋夏 二〇〇	秋夏 二〇〇
西須佐村	桐原 租造	實生魯桑、多胡は第三齡迄島村は四齡迄に其他は第五齡中收穫す	二〇〇	秋蠶二期に摘葉す 魯桑八月下旬より下旬 十文字八月下旬より下旬	秋夏 二〇〇	秋夏 二〇〇	秋夏 二〇〇
兼川郡久木村	三代 藏市	多胡(五月上旬より)摘葉、魯桑(五月下旬より)十文字(六月上旬)刈取	多胡 二〇〇 魯桑 二〇〇 十文字 二〇〇	秋蠶二期に摘葉す 魯桑八月下旬より下旬 十文字八月下旬より下旬	秋夏 二〇〇	秋夏 二〇〇	秋夏 二〇〇
江南村	今若富三郎	稚蠶期芽抜き壯蠶期刈取	二〇〇	秋蠶二期に摘葉	秋夏 二〇〇	秋夏 二〇〇	秋夏 二〇〇
荒木村	圓山運之助	魯桑は六月上旬十文字は稚蠶中より芽抜きをなし五月下旬伐採す	魯桑 二〇〇 十文字 二〇〇	秋蠶二期に摘葉	秋夏 二〇〇	秋夏 二〇〇	秋夏 二〇〇

高濱村 花田市右衛門	五月下旬より六月上旬に亘り伐採す	十文字 三〇〇	秋蠶第一回(八月上旬、中旬) 第二回(九月下旬より十月 上旬)の二回摘葉	十文字 第一回 二〇〇 第二回 一〇〇 計 三〇〇	十文字 四〇〇
平田町 原 豊英	稚蠶中芽摘及葉摘 壯蠶期伐採收穫	十文字 三〇〇	摘葉(秋蠶數回) 自七月至九月間數回秋蠶に銀杏摘法 により收穫	十文字 第一回 二〇〇 第二回 一〇〇 計 三〇〇	十文字 八〇〇
安濃郡 長久村 山崎嘉太郎	右全	十文字 二〇〇		十文字 第一回 一〇〇 第二回 一〇〇 計 二〇〇	十文字 六〇〇
島井村勝部文一郎	白市平 初齡より二齡迄摘葉 元右衛門 三齡より四齡迄伐採 魯桑 四齡より五齡迄全 魯桑 元右衛門、十文字右の後順次伐 採收穫	十文字 二〇〇		十文字 第一回 一〇〇 第二回 一〇〇 計 二〇〇	十文字 四〇〇
波根西村 下垣 豊吉	五月春蠶中に全部根刈	十文字 一〇〇		十文字 第一回 一〇〇 第二回 一〇〇 計 二〇〇	十文字 三〇〇
波根東村 別所倉二郎	發芽前伐採(夏秋蠶専用) 生種用七月廿日刈をなすものあり	十文字 二〇〇		十文字 第一回 一〇〇 第二回 一〇〇 計 二〇〇	十文字 三〇〇
佐比賣村川崎休市	早生五月中旬(三齡の中央)まで摘葉后 伐採中生五月下旬晩生六月上旬伐採	十文字 二〇〇		十文字 第一回 一〇〇 第二回 一〇〇 計 二〇〇	十文字 三〇〇
全村 大谷繁治郎	早生五月中旬(三齡の中央)まで摘葉后 伐採中生五月下旬晩生六月上旬伐採	十文字 二〇〇		十文字 第一回 一〇〇 第二回 一〇〇 計 二〇〇	十文字 三〇〇
五十猛村 藤間澄十郎	早生五月中旬(三齡の中央)まで摘葉后 伐採中生五月下旬晩生六月上旬伐採	十文字 二〇〇		十文字 第一回 一〇〇 第二回 一〇〇 計 二〇〇	十文字 三〇〇
瀧摩郡 福浦村佐々木義徳	早生五月中旬(三齡の中央)まで摘葉后 伐採中生五月下旬晩生六月上旬伐採	十文字 二〇〇		十文字 第一回 一〇〇 第二回 一〇〇 計 二〇〇	十文字 三〇〇
大濱村重田淺一郎	早生五月中旬(三齡の中央)まで摘葉后 伐採中生五月下旬晩生六月上旬伐採	十文字 二〇〇		十文字 第一回 一〇〇 第二回 一〇〇 計 二〇〇	十文字 三〇〇
福光村島田清之助	早生五月中旬(三齡の中央)まで摘葉后 伐採中生五月下旬晩生六月上旬伐採	十文字 二〇〇		十文字 第一回 一〇〇 第二回 一〇〇 計 二〇〇	十文字 三〇〇
大家村 山根常作	早生五月中旬(三齡の中央)まで摘葉后 伐採中生五月下旬晩生六月上旬伐採	十文字 二〇〇		十文字 第一回 一〇〇 第二回 一〇〇 計 二〇〇	十文字 三〇〇
邑智郡 川戸村能美順次郎	早生五月中旬(三齡の中央)まで摘葉后 伐採中生五月下旬晩生六月上旬伐採	十文字 二〇〇		十文字 第一回 一〇〇 第二回 一〇〇 計 二〇〇	十文字 三〇〇
粕淵村 波多野雅之助	早生五月中旬(三齡の中央)まで摘葉后 伐採中生五月下旬晩生六月上旬伐採	十文字 二〇〇		十文字 第一回 一〇〇 第二回 一〇〇 計 二〇〇	十文字 三〇〇

川越村 坂根長太郎	早生五月上旬摘葉後伐採中生中旬晩 生下旬順次伐採收穫す 一株中密接したる部分の下木より順 次伐採す	十文字 三〇〇	八月摘葉 間引芽を初秋蠶に利用し其後摘葉す (柳々摘)	十文字 第一回 二〇〇 第二回 一〇〇 計 三〇〇	十文字 六〇〇
中野村 兒玉 増太	早生五月上旬摘葉後伐採中生中旬晩 生下旬順次伐採收穫す 一株中密接したる部分の下木より順 次伐採す	十文字 三〇〇	秋蠶専用(發芽前伐採及稚蠶中伐採) 魯桑	十文字 第一回 二〇〇 第二回 一〇〇 計 三〇〇	十文字 六〇〇
吾郷村 安田 蛙吉	早生五月上旬摘葉後伐採中生中旬晩 生下旬順次伐採收穫す 一株中密接したる部分の下木より順 次伐採す	十文字 三〇〇	八月七割扇形に葉を残し收穫 二回摘葉	十文字 第一回 二〇〇 第二回 一〇〇 計 三〇〇	十文字 六〇〇
那智郡 石見村 肥塚 忠樹	早生五月上旬摘葉後伐採中生中旬晩 生下旬順次伐採收穫す 一株中密接したる部分の下木より順 次伐採す	十文字 三〇〇	七八月頃各條上部三分の一を残し以 下全部收穫其の收穫部の上半分銀杏 形に下半分は葉柄を残す 夏蠶期一回秋蠶期二回摘葉	十文字 第一回 二〇〇 第二回 一〇〇 計 三〇〇	十文字 六〇〇
都濃村 森脇 久吉	早生五月上旬摘葉後伐採中生中旬晩 生下旬順次伐採收穫す 一株中密接したる部分の下木より順 次伐採す	十文字 三〇〇	秋蠶摘葉	十文字 第一回 二〇〇 第二回 一〇〇 計 三〇〇	十文字 六〇〇
松山村 如山兼太郎	早生五月上旬摘葉後伐採中生中旬晩 生下旬順次伐採收穫す 一株中密接したる部分の下木より順 次伐採す	十文字 三〇〇	全	十文字 第一回 二〇〇 第二回 一〇〇 計 三〇〇	十文字 六〇〇
杵束村 福井 勝治	早生五月上旬摘葉後伐採中生中旬晩 生下旬順次伐採收穫す 一株中密接したる部分の下木より順 次伐採す	十文字 三〇〇	秋蠶摘葉	十文字 第一回 二〇〇 第二回 一〇〇 計 三〇〇	十文字 六〇〇
西隅村 横川 相吉	早生五月上旬摘葉後伐採中生中旬晩 生下旬順次伐採收穫す 一株中密接したる部分の下木より順 次伐採す	十文字 三〇〇	秋蠶摘葉	十文字 第一回 二〇〇 第二回 一〇〇 計 三〇〇	十文字 六〇〇
美濃郡 都茂村 佐々木峯太郎	早生五月上旬摘葉後伐採中生中旬晩 生下旬順次伐採收穫す 一株中密接したる部分の下木より順 次伐採す	十文字 三〇〇	秋蠶摘葉	十文字 第一回 二〇〇 第二回 一〇〇 計 三〇〇	十文字 六〇〇
高津村 城市豊三郎	早生五月上旬摘葉後伐採中生中旬晩 生下旬順次伐採收穫す 一株中密接したる部分の下木より順 次伐採す	十文字 三〇〇	秋蠶摘葉	十文字 第一回 二〇〇 第二回 一〇〇 計 三〇〇	十文字 六〇〇
中西村 中島 安七	早生五月上旬摘葉後伐採中生中旬晩 生下旬順次伐採收穫す 一株中密接したる部分の下木より順 次伐採す	十文字 三〇〇	秋蠶摘葉	十文字 第一回 二〇〇 第二回 一〇〇 計 三〇〇	十文字 六〇〇
豊田村 中島 安七	早生五月上旬摘葉後伐採中生中旬晩 生下旬順次伐採收穫す 一株中密接したる部分の下木より順 次伐採す	十文字 三〇〇	秋蠶摘葉	十文字 第一回 二〇〇 第二回 一〇〇 計 三〇〇	十文字 六〇〇
鹿足郡 津和野町 熊治郎	早生五月上旬摘葉後伐採中生中旬晩 生下旬順次伐採收穫す 一株中密接したる部分の下木より順 次伐採す	十文字 三〇〇	秋蠶摘葉	十文字 第一回 二〇〇 第二回 一〇〇 計 三〇〇	十文字 六〇〇
日原村 村上 幸衛	早生五月上旬摘葉後伐採中生中旬晩 生下旬順次伐採收穫す 一株中密接したる部分の下木より順 次伐採す	十文字 三〇〇	秋蠶摘葉	十文字 第一回 二〇〇 第二回 一〇〇 計 三〇〇	十文字 六〇〇
日原村 大河原エイ	早生五月上旬摘葉後伐採中生中旬晩 生下旬順次伐採收穫す 一株中密接したる部分の下木より順 次伐採す	十文字 三〇〇	秋蠶摘葉	十文字 第一回 二〇〇 第二回 一〇〇 計 三〇〇	十文字 六〇〇
柿木村 村上 利七	早生五月上旬摘葉後伐採中生中旬晩 生下旬順次伐採收穫す 一株中密接したる部分の下木より順 次伐採す	十文字 三〇〇	秋蠶摘葉	十文字 第一回 二〇〇 第二回 一〇〇 計 三〇〇	十文字 六〇〇
藏木村 中田又三郎	早生五月上旬摘葉後伐採中生中旬晩 生下旬順次伐採收穫す 一株中密接したる部分の下木より順 次伐採す	十文字 三〇〇	秋蠶摘葉	十文字 第一回 二〇〇 第二回 一〇〇 計 三〇〇	十文字 六〇〇
八束郡立農事講習 所	早生(二齡より三齡迄)摘葉 中生(四日)伐採收穫 晩生(六月八日)伐採收穫	十文字 三〇〇	秋蠶摘葉	十文字 第一回 二〇〇 第二回 一〇〇 計 三〇〇	十文字 六〇〇

而して殆ど春夏秋蠶兼用桑園にして春蠶又は夏秋蠶専用は極めて少く夏秋蠶期に於て多く摘葉するに至るに随ひ春期に於ける收葉量を減少するの傾きあり
次に各仕立別に付收葉量を見るに左の如き概況なり（第一總説其三栽桑に關す統計表参照）「明治四十四年調査」

根	中	高	春			夏			秋			冬		
			最多	最少	普通	最多	最少	普通	最多	最少	普通	最多	最少	普通
刈	刈	刈	(仁多) 七〇〇	(鹿足) 三〇〇	一五〇	(仁多) 七〇〇	(鹿足) 三〇〇	一五〇	(仁多) 七〇〇	(鹿足) 三〇〇	一五〇	(仁多) 七〇〇	(鹿足) 三〇〇	一五〇
			(仁多) 七〇〇	(鹿足) 三〇〇	一五〇	(仁多) 七〇〇	(鹿足) 三〇〇	一五〇	(仁多) 七〇〇	(鹿足) 三〇〇	一五〇	(仁多) 七〇〇	(鹿足) 三〇〇	一五〇
			(仁多) 七〇〇	(鹿足) 三〇〇	一五〇	(仁多) 七〇〇	(鹿足) 三〇〇	一五〇	(仁多) 七〇〇	(鹿足) 三〇〇	一五〇	(仁多) 七〇〇	(鹿足) 三〇〇	一五〇
			(仁多) 七〇〇	(鹿足) 三〇〇	一五〇	(仁多) 七〇〇	(鹿足) 三〇〇	一五〇	(仁多) 七〇〇	(鹿足) 三〇〇	一五〇	(仁多) 七〇〇	(鹿足) 三〇〇	一五〇

但高刈、中刈仕立は極めて小部分にして主として根刈仕立なるが根刈仕立に於ても春秋蠶兼用として春期は伐採收葉し（稚蠶中は摘葉又は芽摘）秋蠶期に一回乃至數回（二三回位）に摘葉するもの最も多し
而して一般に一年中の收葉量は増したるも春蠶専用に比し春蠶期の收葉は著しく減ト又樹勢も早く衰ふる傾きあり

其二 收穫の方法

收穫の方法は仕立法及養蠶の都合並に時期によりて異り夫々適良の方法を撰ばざるべからず而して左の三法により收穫するを普通とす

一、摘葉 春蠶期に於ては稚蠶飼育用として新芽の上部より成熟、硬軟適度の葉を摘取る夏秋蠶期に於ては蠶論に應ト適當なる葉を順次摘取る此摘取法に全葉を摘取るものと葉柄に葉の一部分を残して剪摘する所謂银杏摘（蝶々摘）の二法あり稚蠶期は勿論壯蠶期に於ても银杏摘を可とするも壯蠶期に於て多く摘採する場合は數葉隔てにて全葉を摘取るも可なり
然れども葉摘の場合は凡て一新芽又は一技條より一回に多くの葉を摘取らざる様注意すべし

二、摘芽 春蠶期に於て初齡より三四齡頃まで芽摘を行ふものあり全芽育は勿論到桑育に於ても芽摘を行ひ全芽を更に到桑して給桑する事あり
芽摘は初め心止り芽と稱する芽の伸長せざるものより摘取り順次下部の芽を摘取り又は抜き取り後伐採するを可とす
芽摘の一種に立抜きと稱し春蠶壯蠶期に桑園に於て桑樹の新芽を抜き取り收穫するものあり此場合には直ちに伐採し株直しを行はざるべからず

三、伐採 春蠶期壯蠶期に於ては桑條を伐採し更に新芽を抜き落し收穫するを

常とし夏秋蠶主用桑園に於ては稚蠶期より伐採して收穫を行ふ又夏蠶期に伐採する夏切桑園に於ては春蠶期に下芽を抜き取り置き後伐採するを通常とす而して一回に伐採する事なく小條より順次數回に刈取る時は收穫を増す事多し從來立木桑に於ては春期摘葉のみにより伐採を行はざるものあり爲めに葉質年々劣悪となる場合少からず故に之等は時々春刈を行ふか又は伐採收穫により新條の發生を促すを可とす

其二 收穫上注意すべき事項

- (一) 桑樹の種類により發芽開葉の時期を異にするのみならず其發育伸長及成熟にも差あれば蠶齡に適應せるものを收穫するを要するは勿論其種類に應じ比較的收穫量多かるべき時期を撰ぶを要す、即ち春蠶期に於て早生桑は稚蠶用に中生桑は其後晩生桑は壯蠶期に收穫する如く又魯桑の如き厚肉大葉種は主に夏秋蠶期に收穫するを可とするが如し
- (二) 春蠶期稚蠶中の摘採法は從來蠶齡に應じ新梢の上部より適宜數枝宛一枚宛の葉摘となすを普通となせしが近來全芽育は勿論對桑育にありても芽摘を行ふもの多くなり

芽摘を行ふ時は先づ條の下部に存する所謂心止り葉と稱する二三葉を有し發育停止せる芽より摘採するを可とす而して葉摘と芽摘との收穫量及勞力關係は未調査なれども適當の方法を講ずれば芽摘の方利益ならんかと思惟せらる

〔參考〕 元東京蠶業講習所に於ては此關係を調査せられたるに一反歩に付葉摘區は百二十一時間半餘の摘採勞力を増加して正葉二貫四百九十六匁を増收せりと而して諸論に曰く「利害は一概に論斷し難さも勞賃不廉なる場合は芽摘を利とし之に反する場合は葉摘に利あり」といふ

(三) 春蠶期第三齡以後の收穫は芽摘及伐採の法による、而して秋蠶兼用にして秋蠶期に多く摘葉する場合にありては成るべく第三齡頃より伐採するを可とすべく又芽摘の場合には下部の新梢より漸次摘採して遂に伐採すべし凡て伐採するには一株中小條より順次數回に伐取る時は收穫量を増加するを常とす又其大條は初め下部二尺位の處の芽を摘取り次に二尺位の高さに切り三四日後切直すを可とす

壯蠶期に刈取るものを第三齡頃より新梢の先端を摘取り收穫し置く時は壯蠶期に各葉の成熟程度均一し良好なりと稱するものあり

(三) 春期伐採後に於ける摘葉は六十日以上を經過せる後に非れば行ふべからず

夏秋蠶期の摘葉方法には種々あり即ち全葉摘取（葉柄を残すものと葉柄共摘取るものと）所謂蝶々摘（又银杏摘とて葉柄に葉の幾分を残す法）と又亂暴なる扱葉を行ふものとあり

従来蝶々摘を行ふを要すとせしが近來全葉摘にて可なりとの説をなすものあり其の得失可否未詳なるも全葉摘は葉を損すること少く貯桑に堪へ又摘採容易にして勞力を要する事少く其他養蠶上の利益多し故に稚蠶期中に摘取る上部の軟葉は蝶々摘となし壯蠶期に於ては二三枚宛全葉摘とし全葉を一枚宛其間に残し置くを可とす摘葉の程度は普通春秋兼用にありては三分の二以内専用桑園にありても五分の四以内に止め決して其以上を摘取るべからず而して一時に一株より多く摘葉する事なく全桑園を廻り一回には數葉に止め數日を隔てて數回に摘取るを要す秋蠶期摘葉器にて扱取るものもあるも多くは條又は芽を傷け實用的のもの少きが如し

其四 收穫に關する當場桑樹試験

「收穫法試験」（伐採摘葉試験） 「明治四十四年創設」

目的 桑樹の刈取及摘葉の時期並に收穫の程度方法を異にするにより桑樹の生育、收葉量及樹勢（樹齡）に如何なる影響を及ぼすやを探究し併せて收穫の適法を知ら

んとするにあり

試験區別

區

別

摘

要

第一區 春期伐採收葉區

春蠶第五齡期に刈取り收葉す（春蠶専用）

第二區 春蠶第三齡期伐採收葉夏秋蠶期摘葉區

春蠶第三齡盛食期に刈取り收葉し夏秋蠶各五齡期に摘葉す（夏秋蠶兼用）

第三區 春期伐採收葉秋期摘葉程度區

春蠶第五齡盛食期に刈取り收葉し秋蠶第五齡期左記二種の程度に摘葉す

(イ) 二分ノ一摘葉

全枝に亘り二分ノ一を收葉す

(ロ) 三分ノ二摘葉

全枝に亘り三分ノ二を收葉す

第四區 春期伐採收葉秋期摘葉區

春蠶第五齡盛食期に刈取り收葉し秋蠶第五齡に摘葉す（春秋蠶兼用）

第五區 春期伐採收葉秋期摘葉方法區

春蠶第五齡盛食期に刈取り收葉し秋蠶第五齡期に左記二種の方法により摘葉す

(イ) 葉のみ摘取るもの

葉柄を残し葉身を摘取る

(ロ) 葉柄共摘取るもの

葉柄も共に全葉を摘取る

第六區 春蠶期伐採收葉夏秋蠶期摘葉區

春蠶第五齡盛食期に刈取り收葉し夏秋蠶各第五齡期に摘葉す（春夏秋蠶兼用）

		明治四十五年					大正二年					大正三年				
年次	種別	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區	第八區	第九區	第十區	第十一區	第十二區	第十三區	第十四區	第十五區
		(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)
最長	新芽ノ	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	
最短	ノ	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
平均	長サ	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	
最多	新芽ノ	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
最少	ノ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
平均	數	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	
最多	葉ノ	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
最少	數	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
平均	(一新芽)	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	

		大正四年						
年次	種別	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區
		(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)	(イ)
最長	新芽ノ	110	110	110	110	110	110	110
最短	ノ	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
平均	長サ	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
最多	新芽ノ	5	5	5	5	5	5	5
最少	ノ	2	2	2	2	2	2	2
平均	數	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
最多	葉ノ	6	6	6	6	6	6	6
最少	數	3	3	3	3	3	3	3
平均	(一新芽)	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0

備考 第七區は三月中伐採す
 發芽開業期は第七區を除く外各區共大なる差異を認むる能はず又黄變落葉期に於ても其差頗る少きも唯秋期硬化の時期は第七區最も早く第一區之に亞き第四、第五區最も遅く第二、第六區等は第一區に亞きて硬化するが如し
 二、八十八夜に於ける調査

		大正元年					大正二年					大正三年				
		第三區	第四區	第五區	第六區	第七區	第三區(イ)	第四區(ロ)	第五區(イ)	第六區(ロ)	第七區(イ)	第三區(イ)	第四區(ロ)	第五區(イ)	第六區(ロ)	第七區(イ)
總收量	新植葉量	1125	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025
計	量	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025
順收	價	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025
株調	査	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025
數	査	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025	1025

		大正四年				
		第三區(イ)	第四區(ロ)	第五區(イ)	第六區(ロ)	第七區(イ)
總收量	新植葉量	1025	1025	1025	1025	1025
計	量	1025	1025	1025	1025	1025
順收	價	1025	1025	1025	1025	1025
株調	査	1025	1025	1025	1025	1025
數	査	1025	1025	1025	1025	1025

枝條發育の狀況は晩秋に於ける調査の如く第七區、第一區最もよく肥大伸長し稍過大徒長の感あり第二區之に亞き其他は何れも細短にして秋期摘葉程度多きもの程條の上部彎曲せるを見る

大正二年 收穫調查 (春、夏、秋期、通計)

種別	春 期 (五月三十一日)		夏 期 (八月二日)	秋 期 (八月廿二日)	夏、秋期 收穫量計	總 計		順收 價	株調 査
	總收量	新植葉量				總收量	新植葉量		
第一區	757.6	1515.2	1025.0	1138.0	1163.0	757.6	1515.2	1163.0	1025
第二區	609.5	1219.0	1025.0	1025.0	1025.0	609.5	1219.0	1025.0	1025
第三區(イ)	757.6	1515.2	1025.0	1025.0	1025.0	757.6	1515.2	1025.0	1025
第三區(ロ)	757.6	1515.2	1025.0	1025.0	1025.0	757.6	1515.2	1025.0	1025
第四區	617.7	1235.4	1025.0	1025.0	1025.0	617.7	1235.4	1025.0	1025
第五區(イ)	635.9	1271.8	1025.0	1025.0	1025.0	635.9	1271.8	1025.0	1025
第五區(ロ)	635.9	1271.8	1025.0	1025.0	1025.0	635.9	1271.8	1025.0	1025

備考 第二區は五月十八日(第三齡盛食期)伐採收葉せり
第七區は三月二十九日(發芽前)伐採せり

大正三年
植付ヨリ四年目
收穫 二年目

種別	春 期 (五月廿八日)			夏 期 (七月廿八日)		秋 期 (八月廿日)		夏、秋 期 收葉量計		總 計		順收 位葉 株調 數查
	總收量	新梢葉量	葉 量	收葉量計	收葉量計	收葉量計	收葉量計	總收量	新梢葉量	葉 量		
第一區	30,000	33,360	33,500	8,600	1,120	9,720	1,120	30,000	33,360	33,500	八	
第二區	33,019	14,920	13,390	7,000	7,000	14,000	7,000	33,019	14,920	13,390	七	
第三區(イ)	55,269	26,985	19,070	8,000	8,000	16,000	8,000	55,269	26,985	19,070	六	
第三區(ロ)	52,295	25,988	18,890	1,000	1,000	2,000	1,000	52,295	25,988	18,890	五	
第四區	47,666	33,653	12,137	1,000	1,000	2,000	1,000	47,666	33,653	12,137	四	
第五區(イ)	44,200	33,202	12,137	1,000	1,000	2,000	1,000	44,200	33,202	12,137	三	
第五區(ロ)	42,575	33,588	14,879	1,000	1,000	2,000	1,000	42,575	33,588	14,879	二	
第六區	46,653	30,696	14,165	1,000	1,000	2,000	1,000	46,653	30,696	14,165	一	
第七區	25,736	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	25,736	1,000	1,000	〇	

備考 第二區は五月十八日伐採せり
第七區は三月二十五日伐採せり

大正四年
植付ヨリ五年目
收穫 三年目

種別	春 期 (五月廿一日)			夏 期 (七月廿二日)		秋 期 (八月四日)		夏、秋 期 收葉量計		總 計		順收 位葉 株調 數查
	總收量	新梢葉量	葉 量	收葉量計	收葉量計	收葉量計	收葉量計	總收量	新梢葉量	葉 量		
第一區	78,766	33,000	33,913	8,800	1	1	1	78,766	33,000	33,913	〇	
第二區	44,400	17,668	11,326	1,000	1,000	2,000	1,000	44,400	17,668	11,326	〇	
第三區(イ)	63,600	33,800	33,553	8,700	1,000	1,000	1,000	63,600	33,800	33,553	〇	
第三區(ロ)	63,050	33,570	33,560	1,000	1,000	2,000	1,000	63,050	33,570	33,560	〇	
第四區	64,900	33,370	33,520	1,000	1,000	2,000	1,000	64,900	33,370	33,520	〇	
第五區(イ)	55,180	26,180	30,140	1,000	1,000	2,000	1,000	55,180	26,180	30,140	〇	
第五區(ロ)	55,412	26,820	30,140	1,000	1,000	2,000	1,000	55,412	26,820	30,140	〇	
第六區	50,648	30,000	17,160	1,000	1,000	2,000	1,000	50,648	30,000	17,160	〇	
第七區	1	1	1	1,000	1,000	2,000	1,000	1	1	1	〇	

備考 第二區は五月十八日伐採收葉せり
第七區は三月廿日伐採せり

自大正二年
至大正四年
收穫量 (春、夏、秋期通計)

植付ヨリ三年目ヨリ五年目迄
收穫一年目ヨリ三年目迄

種別	春 期			夏 期		秋 期		夏、秋 期 收葉量計		總 計		順收 位葉 株調 數查
	總收量	新梢葉量	葉 量	收葉量計	收葉量計	收葉量計	收葉量計	總收量	新梢葉量	葉 量		
第一區	21,774	1,000	7,260	1	1	1	1	21,774	1,000	7,260	八	
第二區	17,210	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	17,210	1,000	1,000	七	

第三區(イ)	一、九四二、六三	七〇、四九〇	六、九六〇	一、二九七、六三	三、九七三	一、一五七、二二	八、七四三	六
(ロ)	一、九〇九、〇五	八四、八六一	六、四八〇	一、〇五三、〇〇	三、五三〇	一、一〇〇、三三	九、〇三三	六
第四區	一、八六四、九一	七〇、〇五五	六、九六〇	一、一五三、〇〇	三、九七三	一、一〇〇、三三	九、〇三三	六
第五區(イ)	一、八三九、七三	八三、五二一	五、九〇六	一、〇六三、〇〇	三、五三〇	一、一〇〇、三三	九、〇三三	六
(ロ)	一、八二五、一四〇	八三、五〇二	五、四四四	一、〇〇八、〇〇	三、〇六二	一、〇〇八、〇〇	九、〇三三	六
第六區	一、六四四、〇〇	八七、九六六	五、六一四	一、〇七五、〇〇	三、六六二	一、一五七、二二	八、七四三	六
第七區				一、〇九一、〇一	三、九七三	一、一五七、二二	八、七四三	六

備考 第七區は大正四年春蠶期枝條量不明なるが故に總收量不明なりとす
 本試験は未だ年數を累ぬる事少きを以て利害得失等未だ判定し能はざるも以上各種
 の調査及其他の觀察によりて見る時は概要左の如し

收葉量は春蠶五齡期伐採收葉後更に秋蠶又は夏秋蠶期に摘採するもの收葉量最も多
 く夏秋蠶兼用(發芽前伐採夏秋期摘葉區)及春蠶專用(春蠶第五齡期伐採收葉)最も少
 く夏秋蠶主用(春蠶第三齡期伐採收葉夏秋期摘葉)は是等に比し稍多かりき而して秋
 期に於ける摘採程度に就て見る時は三分ノ二摘採は二分ノ一摘取より多く尙最も多
 く摘取る第五、第四區は共に勝れり摘葉方法に於ては葉のみ摘取るもの最も多く葉
 柄共摘取るもの之に亞ぎ蝶々摘をなせるもの(第四區の如き)は稍劣れり
 桑樹の伸長、肥大及一株條數等の如き發育は收葉量に殆ど反比例せるが如き状態を
 示し發芽前伐採夏秋蠶期摘葉(夏秋蠶兼用)及春期伐採收葉(春蠶專用)最も良好にし

種別	芽			摘 (葉量)			葉			摘 (葉量)		
	五月十五日全	十八日全	計	五月十五日全	十八日全	計	五月十五日全	十八日全	計	五月十五日全	十八日全	計
甲	三本植	二本植	一本植	七〇	一〇二	一七二	一	一	二	五二	七三	一二五
九	三本植	二本植	一本植	五三	五三	一〇六	一	一	二	五二	七三	一二五
九	三本植	二本植	一本植	五三	五三	一〇六	一	一	二	五二	七三	一二五
九	三本植	二本植	一本植	五三	五三	一〇六	一	一	二	五二	七三	一二五

て春蠶第三齡期伐採夏秋期摘葉之に亞ぎ春期伐採秋蠶期摘葉稍悪く春期伐採夏秋蠶
 兩期に摘葉せるもの最も劣れり
 萎縮病は春期伐採春蠶專用に最も多く發生し春夏秋蠶兼用秋期葉柄共摘取るもの等
 之に亞ぎ其他は極めて少かりき
 樹齡及此後に於ける樹勢、收葉量等は推測し得べからざるも春秋兼用を最も得策と
 するが如し然れども春期摘葉程度多きに過ぐるものは著しく樹勢を害するを以て夏
 秋蠶を多く飼育する者にありては幾分の春秋蠶用桑園を特設するを要す

芽摘と葉摘との比較調査

春蠶期に於ける芽摘と葉摘との二様を行ひ調査せるに其成績左の如し

十文字	三本植	五月十日	全十八日	全廿一日	全廿六日	計	差引	五月十日	全十八日	全廿一日	全廿六日	計	差引
	二本植	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一本植	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

此調査は大正四年一回の調査なるにより未詳なるも葉摘は芽摘に比し收穫多きが如し

第九 桑園年中行事

本縣の當業者に於て行ふ年中の桑園行事は地方に依りて異なるのみならず普通農事其他作業の都合等の爲め時々變更し何等一定の標準となるべきものなく唯其時に應ト適宜肥培耕耘するに過ぎず而して一般に桑園の行事は其時期を顧慮するもの少きを以て時期を失し桑樹栽培上不都合なる事少からず今縣下各地に於て普通と認むべき桑園年中行事を見るに概要左の如し

其一 縣下桑園行事の概況

「大正三年四月調」

隱岐國	島郡	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
着手	春期耕耘	春期耕耘	春期耕耘	春期耕耘	春期耕耘	春期耕耘	春期耕耘	春期耕耘	春期耕耘	春期耕耘	春期耕耘	春期耕耘	春期耕耘
桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付
害蟲驅除	害蟲驅除	害蟲驅除	害蟲驅除	害蟲驅除	害蟲驅除	害蟲驅除	害蟲驅除	害蟲驅除	害蟲驅除	害蟲驅除	害蟲驅除	害蟲驅除	害蟲驅除
補肥	補肥	補肥	補肥	補肥	補肥	補肥	補肥	補肥	補肥	補肥	補肥	補肥	補肥
早、中生の葉摘	早、中生の葉摘	早、中生の葉摘	早、中生の葉摘	早、中生の葉摘	早、中生の葉摘	早、中生の葉摘	早、中生の葉摘	早、中生の葉摘	早、中生の葉摘	早、中生の葉摘	早、中生の葉摘	早、中生の葉摘	早、中生の葉摘
晩生葉の收穫	晩生葉の收穫	晩生葉の收穫	晩生葉の收穫	晩生葉の收穫	晩生葉の收穫	晩生葉の收穫	晩生葉の收穫	晩生葉の收穫	晩生葉の收穫	晩生葉の收穫	晩生葉の收穫	晩生葉の收穫	晩生葉の收穫
夏期耕耘	夏期耕耘	夏期耕耘	夏期耕耘	夏期耕耘	夏期耕耘	夏期耕耘	夏期耕耘	夏期耕耘	夏期耕耘	夏期耕耘	夏期耕耘	夏期耕耘	夏期耕耘
追肥	追肥	追肥	追肥	追肥	追肥	追肥	追肥	追肥	追肥	追肥	追肥	追肥	追肥
秋蠶摘葉	秋蠶摘葉	秋蠶摘葉	秋蠶摘葉	秋蠶摘葉	秋蠶摘葉	秋蠶摘葉	秋蠶摘葉	秋蠶摘葉	秋蠶摘葉	秋蠶摘葉	秋蠶摘葉	秋蠶摘葉	秋蠶摘葉
秋蠶用の摘葉	秋蠶用の摘葉	秋蠶用の摘葉	秋蠶用の摘葉	秋蠶用の摘葉	秋蠶用の摘葉	秋蠶用の摘葉	秋蠶用の摘葉	秋蠶用の摘葉	秋蠶用の摘葉	秋蠶用の摘葉	秋蠶用の摘葉	秋蠶用の摘葉	秋蠶用の摘葉
結束	結束	結束	結束	結束	結束	結束	結束	結束	結束	結束	結束	結束	結束
桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付	桑苗植付

邑智郡	瀧摩郡	安濃郡	兼川郡	飯石郡	大原郡	能登郡	八束郡
害蟲驅除全	害蟲驅除全	施肥	耕耘	病蟲害驅除	前年收支の豫定	介殼蟲驅除	
上	上	（二本畝掛） 深耕七八寸 蠶豆鋤込	（介殼蟲） 耕耘 結束	中耕、施肥 栽植補種	芽出、新刈 補種、改種	桑苗接木 結束	第一回除草 第一回施肥
第一回耕耘	第一回耕耘	大豆播種	施肥（前月より） 株直	結束解除	結束解除	害蟲驅除	
畦を平にし 尺、蠶、天牛の 捕殺	株直	除草	株直	採刈			
株直	株直	（二本畝掛） 浅耕五寸	耕耘 （中央より） （両方へ耕す）	採刈	採刈	株直	第二回除草 第二回施肥
株直後第二回 耕耘	株直後第二回 耕耘	（中央より） （両方へ耕す）	耕耘（前月より） 除草	不用枝除の 採刈	不用枝除の 採刈	株直	
天牛其他害 蟲驅除	天牛其他害 蟲驅除	除草	除草	全上及除草全	全上及除草全	株直	第三回除草 小枝間伐
浅耕し雑草 を埋む	浅耕し雑草 を埋む	除草	除草	上	上	株直	
第三回耕耘	第三回耕耘	蠶豆播種	結束	「枝條結束」 「本月より」	「枝條結束」 「本月より」	株直	
結束、病株 の掘取	結束、病株 の掘取	（中央より） （両方へ耕す） に「至る」	耕耘（畦の） 中央に「至る」 八寸、深耕七寸 に「至る」	「枝條結束」 「本月より」	「枝條結束」 「本月より」	株直	
「深四寸」を なす	「深四寸」を なす	上	上	全上	全上	株直	耕結束

五月	五月		六月	七月		八月	九月	
	中旬	下旬		上旬	中旬		下旬	上旬
除草	夜盗蟲捕殺	夜盗蟲捕殺	夜盗蟲捕殺、補植、	夜盗蟲捕殺、夏肥施與	夜盗蟲捕殺、株直、	夜盗蟲捕殺、株直、	夜盗蟲捕殺、株直、	夜盗蟲捕殺、株直、
除草	夜盗蟲捕殺	夜盗蟲捕殺	夜盗蟲捕殺、夏肥施與	伐株收穫、株直、	桑園整理	桑園整理	桑園整理	桑園整理
きんけむし捕殺	摘葉及伐株	摘葉及伐株	伐株收穫、株直、	桑園整理	株直及整理	株直及整理	株直及整理	株直及整理
摘葉及伐株	桑園整理	桑園整理	除草、夏期耕耘	夏肥施與、夏期耕耘	夏肥施與、地均し	夏肥施與、地均し	夏肥施與、地均し	夏肥施與、地均し
摘葉及伐株、 天牛驅除(幼蟲)	桑園整理	桑園整理	夏期耕耘、夏肥施與	天牛幼蟲驅除、スキムシ及金龜子捕殺	實生苗圃及桑苗圃除草、天牛及金龜子捕殺	桑苗圃追肥、摘葉、除草、天牛捕殺	桑苗圃追肥、摘葉、除草、天牛捕殺	桑苗圃追肥、摘葉、除草、天牛捕殺
摘葉及伐採、 金貼斷捕殺、 間作蠶豆收穫及敷	伐株收穫、株直、 除草、 間作苜蓿刈取及敷込、 桑苗圃除草	伐株收穫、株直、 除草、 間作苜蓿刈取及敷込、 桑苗圃除草	收穫、株直、 除草	夏期耕耘、夏肥施與、 魯桑種子播種、 天牛幼蟲驅除	夏期耕耘、夏肥施與、 魯桑種子播種、 天牛幼蟲驅除	夏期耕耘、夏肥施與、 魯桑種子播種、 天牛幼蟲驅除	夏期耕耘、夏肥施與、 魯桑種子播種、 天牛幼蟲驅除	夏期耕耘、夏肥施與、 魯桑種子播種、 天牛幼蟲驅除

十月	十一月		十二月	
	上旬	中旬	下旬	中旬
除草、害蟲驅除	天牛驅除	天牛驅除	天牛驅除	天牛驅除
スキムシ捕殺	スキムシ捕殺	スキムシ捕殺	スキムシ捕殺	スキムシ捕殺
害蟲驅除、除草	害蟲驅除、除草	害蟲驅除、除草	害蟲驅除、除草	害蟲驅除、除草
桑園整理	桑園整理	桑園整理	桑園整理	桑園整理
落葉集燒棄	落葉集燒棄	落葉集燒棄	落葉集燒棄	落葉集燒棄
天牛幼蟲驅除、 結束	天牛幼蟲驅除、 結束	天牛幼蟲驅除、 結束	天牛幼蟲驅除、 結束	天牛幼蟲驅除、 結束
落葉集燒棄、 間作苜蓿	落葉集燒棄、 間作苜蓿	落葉集燒棄、 間作苜蓿	落葉集燒棄、 間作苜蓿	落葉集燒棄、 間作苜蓿
落葉集燒棄、 結束	落葉集燒棄、 結束	落葉集燒棄、 結束	落葉集燒棄、 結束	落葉集燒棄、 結束
天牛幼蟲驅除、 結束	天牛幼蟲驅除、 結束	天牛幼蟲驅除、 結束	天牛幼蟲驅除、 結束	天牛幼蟲驅除、 結束

現在の如く蠶業は倍々發達普及し殆ど農家の必須的副業として經營せられ桑園も愈々増殖せらるるに於ては桑園の肥培處理其他の作業は之を適當なる時期に施行するは實に桑樹栽培上極めて緊要の事にして經營上亦講究すべき事なりとす

而して桑園年中行事は地方により又他の業務等種々の事情を異にするにより一概に定むを得ざるは勿論諸種の都合により實際に於て適當なる時期に行はれざる場合あり

れども可及的適切なる時期を選び以て十分なる桑樹の發育繁茂を遂げしめ又桑園の經濟を圓滿に維持せしむる如く心掛くるを要す
今茲に本縣に於て略々標準となるべき桑園年中行事の概要を示し以て参考に資せんとす

然れども是れ元より一般的の指針を示すに過ぎざれば宜しく其地方又當業者に於て適宜活用する事を要するは勿論なりとす

其二 桑園行事標準

一 月

小寒(五―七日)
大寒(廿―廿一日)

一、冬季耕耘 冬季耕耘は本月中に行ひ了るべし(方法十一月参照)

一、寒肥施與 寒肥は冬季耕耘の際若しくは耕耘後直ちに畦間に施與す(方法十一月参照)

一、病蟲害驅除 桑條の結束、枝條の罅隙、株元及枯葉等の中に潛伏越冬せる害蟲(スキムシ、スムシ、キンケムシ、エダシヤクトリ夜盜蟲等の幼蟲)を捕殺す

ること
枯れたる枝梢條株等を剪定鋏又は小鋸にて伐取りて燒棄し是等に潛伏せる

ヒメヅウムシヒメコシクヒ其他小甲蟲類等を驅除すること

枝條の皮部を馬蹄形に嚙切り其内に米粒大の天牛の卵塊あり錐にて突き殺すべし

介殼蟲の寄生せる株及枝條には石油乳劑三乃至五倍稀釋液、石灰硫黃合劑比重五度液又は石油を塗布し若くは瓜、莧等にて掻き落すこと但石油は本月及二月中旬迄の間にのみ用ふべし

其他オホヨコバイ、ハマキムシ、ケムシ等の卵を採りて殺すべし

膏藥病は石油を塗布して又は雨後篋にて剥き取りて燒棄し其跡に石灰ホルドウ液を塗布し置くこと

白紋羽、紫紋羽、根朽病等の罹病株は之を掘り起し細根も残らず拾集めて燒棄し其畑跡には石灰乳(水一斗に生石灰一貫五百匁)又石灰窒素等を注ぎて土を掻き混ぜ或は燒土して土地の消毒を行ふこと

胴枯病枝枯病其他枝條の病害部は伐取り燒棄すること

一、野鼠驅除 圃場及畦畔道略の傍等の野鼠の穴を搜索し野鼠チナス菌を和したる蕎麥團子を穴中に深く轉かし込むべし

一、苜蓿移植 綠肥用として苜蓿を間作するものは豫ねて栽培せる苗を畦間に移

植すべし

一、植付準備 既植地、補植地は株を掘り起し置き新植地は天地返しの方法により耕起して寒に曝らし置くこと

二 月

節分(三―四日)
立春(四―五日)

一、病蟲害驅除 前月に引續き之を行ふ

一、苗床準備 苗圃となすべき地は耕起し置くべし

一、春肥準備 春肥の共同購入をなし大豆粕、鯨粕、種粕類は細碎する等其他凡て春肥の準備を行ふべし

一、整地 植付を行ふべき畑は植溝又植穴を穿ち堆肥、厩肥等の整地肥料を施し置くこと

三 月

啓蟄(六―八日) 春彼岸(自十八日―十九日)
春分(廿一日) 至廿四日―廿五日)

一、春季耕耘 二月下旬頃より本月中下旬頃迄に春季の耕耘を行ふ其法冬季耕耘にて盛上げ置きたる畦間を耕起して株間に返す

一、春肥施與 耕耘を終れば春彼岸頃迄に畦間に春肥を敷き込み地均しを行ふ施肥の量は年中施肥量の約半量にして大略左の如し「一反歩施用量」

堆肥又厩肥 三四百貫位人屎尿百乃至百五十貫位大豆粕又は鯨粕其他粕類約十貫乃至十三四貫

過磷酸石灰四五貫 又は灰(木灰、土灰)十貫位
堆、厩肥藁稈等其他寒肥を施せるものは其他の肥料を株間又は畦間に適宜耕耘の際敷き込むを便とす

一、接

木 本月初旬より早、中、晩の順序により本月中に接木を行ふ、穂木及接根の貯蔵せるものは之を取出して直ちに接木し否らざるものは五六日前に穂木を伐取りて納屋又は砂中に貯蔵し根は掘取て直ちに用ふべし

一、春

植 春植は本月中に行ふ、植穴又植溝に腐熟堆肥、人屎尿、大豆粕、過磷酸石灰等を施して整地し根拵せる桑苗を持ち來りて丁寧に植付け條を適宜切止めし置くべし

桑園の補植も此時に行ふ補植用苗は最も健全良好なるものを選びを要す

一、春刈及整枝 根刈桑園植付貳年目の株定め及夏秋蠶用桑園又取木用母株等は本月中旬頃迄に株元より刈取り株直を行ふ中刈、高刈桑園は幹を作り株定めをなす迄目的の高さに伐取り株幹を作り樹姿を整ふ
成木せる高刈桑園の整枝を行ふ

- 一、桑苗伏込 接木せる桑苗は豫ねて整地せる苗圃に伏込む
- 一、其他 寒枯に罹りし枝條の先端は之を伐取り下部の發育及新梢の伸長を促すべし

四月

清明(五日)
穀雨(廿日)

- 一、結束解除 三月下旬頃より結束を解除す、結束には害蟲附着すること多ければ取集めて焼棄すべく結束は桑芽開綻の順位に倣ふを可とするも風害霜害地等は桑芽を害せざる限り遅きを可とす
- 一、除草 中、下旬桑園の草削を行ひ畦間に敷き込むべし
- 一、大豆播種 綠肥用大豆を間作するものは上、中旬畦間に播種す
- 一、病蟲害驅除 キンケムシ、エダシヤクトリ、ハマキムシ等は桑芽を喰害するを以て捕殺すべし
ヒメアウムシ、クハハムシ、ヒメハムシ、ピロウドコガ子等も桑芽を喰害するにより石油を盛れる金盞の類に拂落し驅除すべし
桑天牛及トラフカシキリ等は本月中下旬より加害を初め桑天牛は排泄孔より蟲糞を洩出するを以て此穴より注射ポンプを以て除蟲菊浸出石油乳劑を

注射シトラフカシキリは樹皮の裂目より蟲糞を洩すを以て此部分を掘起して取出し殺すべし

赤澁病は本月下旬頃より桑芽を侵し傳染速かにして蔓延するを以て見付け次第直ちに被害芽を摘取り焼棄し被害甚しければ枝條を伐採し殊に附近の立木は其新條を伐採焼棄すべし

- 一、凍害豫防 本月下旬より五月上旬に亘り結霜するが如き不時の寒冷により凍害を蒙ることあり被害多き地は豫防の準備として燻烟材料を桑園各所に配置し又は被覆法を行ふべき棚等を桑園に設け凍害を豫知する時は一地方共同し豫防に努むべし

五月

立夏(六日)
小滿(廿一日)

八十八夜(一一二日)

- 一、收穫 四月下旬頃より春蠶飼育を始むるを以て摘葉又は伐採により收穫す
早生桑は一二齡中生桑は三四五齡晩生桑は五齡に收穫するを常とし稚蠶中は心止り芽又下芽等を摘取り第三齡頃より順次伐採すべし
- 一、株直 桑條刈取後は直ちに叮嚀に株直を行ふ株直しは鋭利なる小鎌を用ゐる剪定鋏を用ふべからず

- 一、病蟲害驅除 桑ヲラミ、キンケムシ、浮塵子、夜盜蟲、ヒメアウムシ、桑ハムシ、ヒメハムシ、蛭蟪、蝸牛等の驅除を行ふこと
- 一、採 苗 代出法及傘取撞木取等の如き取木を行ふ
- 一、綠肥收穫 綠肥用として間作せる蠶豆及苜蓿は其生育盛りの時期に拔取又は刈取りて二三日間放置し後畦間に敷き込みべし、若し直ちに敷き込み能はざる處は堆肥となし夏肥として施與すべし

六 月

芒種(七日) 夏至(廿二日)

入梅(十一―十二日)

- 一、收穫及株直 春蠶第五齡期は刈取りて收穫す刈取後は直ちに晴天の日に株直を行ふ
- 一、夏期耕耘 刈取株直後は直ちに畦間株間を耕耘す其深さ株元は淺くし其他は六七寸位にし此際雜草及夏肥を畦間に敷き込むべし
- 一、夏肥施與 夏期耕耘の際畦間に肥料を敷き込むべし若し此時施肥し能はざるものは本月下旬乃至七月上旬迄の間に於て畦間に施肥すべし其量は年中施肥量の約半量にして概量を示せば左の如し「一反歩施肥量」
 糞沙二三百貫位(堆肥三四百貫位)人屎尿百四、五十貫位大豆粕又鯨粕類

約十貫過燐酸石灰四、五貫位

- 一、實 蒔 熟したる桑椹を採集して種子を採り又は取寄せ苗圃を作りて播種すべし
- 一、病蟲害驅除 心止蟲、クハハムシ、ヒメハムシ、セメアウムシ、キンケムシ、スキムシ、枝尺蠖等を捕殺すべし桑條伐採後株の周圍に桑條二三本宛立て置く時害蟲集るを以て之を取集めて焼却すべし
- 一、桑苗圃の手入 雜草發生せば直ちに除去し排水、早魃に注意し稀薄なる下肥を施し又脇芽及不用芽の摘取等に注意すべし

七 月

小暑(七日) 大暑(廿三日)

半夏生(二日) 夏土用入(廿日)

- 一、除 草 草削りを行ひ畦間に敷き込み株元に少しく土寄せを行ふ
- 一、間 引 伐採後發生せる不良芽及不用の桑條等を間引(高刈仕立にては疎枝)し桑條の均一なる發育伸長を計るべし
- 一、收 葉 夏秋蠶用桑園の摘葉を行ふべし此時の摘葉法は蝶々摘法により一條より一回に二三葉に止め數日を隔て、摘取り二分の一以内に限るべし
- 一、追 肥 桑園及桑苗圃に追肥をなすものは本月中下旬より八月上旬までに

速効肥料を施すべし

一、緑肥大豆收穫 中下旬頃春蒔大豆の收穫時期に達するを以て之を抜き取り一二日間陽乾し畦間に敷き込むべし

一、桑苗圃の手入 除草及苗圃の乾濕に注意し實生苗圃は數回に間引を行ひ接苗圃は脇芽の搔取を行ふべし

一、害虫驅除 早朝桑園を見廻り桑天牛、トラフカシキリ、金龜子の成蟲を捕殺すべし

八月

立秋(八日)
處暑(廿三日)

一、收 葉 秋蠶飼育用の桑葉を摘取る摘葉方法は稚蠶中は蝶々摘となし壯蠶期は蝶々摘となすが條の中途の處々に全葉を残して全葉を摘取り一回一條より多く摘取ることなく又節度なき濫採を慎み摘採程度も五分の四以上を越ゆべからず

一、除 草 草削を行ひ畦間に埋め込むべし

一、取木苗手入 撞木取、傘取等の伏條の基部に傷を付け發根を促すべし

一、病害蟲驅除 早朝桑園を見廻り桑天牛、トラフカシキリ金龜子等の成蟲を捕殺

しスキムシ、キンケムシ、スムシ等の幼蟲を捕殺すべし
スリツアス、ダニ等の大發生をなしたる時は石油乳劑二十倍乃至廿五倍稀釋液を撒布すべし天牛は桑皮を噛みて産卵するを以て錐を以て穿ち殺すべし

九月

白露(八日)
秋分(廿三日)

二百十日(一一二日)

一、收 葉 晩秋蠶用桑葉を摘採す注意事項八月に全ト

一、病害蟲驅除 八月に引續きスキムシ、スムシ、ハマキムシ、キンケムシ、エダシヤクトリ等の捕殺及天牛の卵の穿殺等を行ふべし
白澁病、汚葉病等の被害葉を摘採し燒棄すべし

十月

寒露(九日)
霜降(廿四日)

一、除 草 草削を行ひ畦間を淺耕し埋め込むべし
一、病害蟲驅除 スキムシ、ハマキムシ、キンケムシ、エダシヤクトリ、天牛の驅除等前月に引續き行ふべし

白澁病、汚葉病等の摘取燒棄等も前月に引續き行ふべし
胴枯病、枝枯病等は被害部を伐取り紋羽病、根朽病等は掘取り其堀跡に石

一、結 灰乳及石灰窒素を撒布し又は焼土して消毒すべし
東 本月下旬頃より落葉を始むるにより下部より細繩又は藁藎を以て結束すべし

一、桑園の清潔 畦株間及株元の落葉は之を掻き集めて堆肥とし又は焼却する時は病蟲害驅除豫防（スキムシ、スムシ、ハマキムシ、キンケムシ、夜盜蟲、白澁病、汚葉病等）上其効甚多し

十一月

立冬（八日）
小雪（廿三日）

一、桑園の清潔 前月に引續き落葉の處理を行ひ尙枯れたる枝條、株等を伐取り桑園の清潔を計るべしこの清潔は病蟲害豫防驅除上最有効なり

一、結 東 下部の落葉をなすに至れば下部を結束し大部分落葉するに及びて上部の結束を行ふべし結束の場所は普通上下より各三分の一の處を細繩又は藁藎にて結束す

一、冬期耕耘 結束を終れば畦間及株間を深耕して土を上下反轉して畦間に盛り株間及株元を曝へ凸形となし所謂寒稚子の方法を行ふ深耕の程度は一尺乃至一尺二三寸とし株際に近くに從ひ淺耕すべし但寒地にては株元に土を寄

せ寒害を防ぐべし

一、寒肥施與 寒肥を施すものは冬期耕耘の際畦間に敷き込む其法に二様あり一は畦間を耕起して掘り分け溝を作りて施肥して覆土し畦間に土を盛り一は畦間に肥料を擴げ置き畦間の一隅より肥料を埋込めつゝ耕耘して畦間に土を盛るにあり
寒肥の種類は堆肥、厩肥、藁稈、雜草、芝草等の如き遲効性肥料を用ふべし

十二月

大雪（七日）
冬至（廿二日）

- 一、冬期耕耘 前月に引續き行ふ
- 一、寒肥施與 前月に引續き行ふ
- 一、桑苗堀取 桑苗落葉を終れば之を堀取り排水良好なる砂土地に假植し置くべし
- 一、秋 植 秋植を行ふものは前月に整地し置き桑苗を植付け條は二尺以上附し置き根元に土を盛り寒地にては藁殼を覆ひ置くべし

第十 桑樹栽培收支計算

其一 桑園收支計算

桑樹栽培上其の收支計算を明かにするは桑園經營上極めて緊要なる事にて最も明確

ならざるべからず
 而して桑は養蠶上最も主なる要素にして殊に養蠶經濟に關係する處頗る大なるのみならず桑樹は他の普通作物と異り其の生育期間長く十數年若しくは數十年に亘るが故に其の栽培法及び經營の方法如何は直ちに桑園經濟に多大の影響を及ぼすものなり
 されば栽桑者は多大の收穫を得んが爲め桑園の培養に努むると共に常に其の收支を明瞭にし以て收益を多からしめ桑園經濟の圓滿を圖る事最も肝要なりとす
 然るに從來桑園の收支計算は栽植より其の生育(又收穫)期間毎年に於ける支出及收入を調査せざるべからざるが故に長年月を要し頗る複雑なるを以て其の一代に亘りて調査せるものあるを聞かず隨て實際の狀態を知り難きのみならず從來正確なるもの殆どなきが如し
 今從來調査せる桑樹栽培收支計算の一例を示し参考に供す
 但

- 一、土地 畑地中等の上、掛米八斗
- 一、小作料を支拂ふものとす
- 一、春秋蠶兼用根刈仕立

支出費目	年次									
	初年	二年	三年	四年	五、六年(平均)	七、八年(平均)	九、十年(平均)	十一年以後(平均)	平均	
地代	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	
桑苗代	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	
肥料代	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	
人夫賃	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	
農具損料	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	
雜費	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	
計	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	

一、植付株數 一反步約千株
 一、肥料 堆肥、人糞尿、大豆粕、過磷酸石灰、木灰等を施用す
 一、桑苗代 一本壹錢五厘
 一、人夫賃 男一人四十五錢 女一人二十五錢
 故に自家所有土地なる時は小作料の代りに諸税諸掛を支出するを以て支出に差を生ず

種目	年次											
	初年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年以後	平均
春蠶桑葉代	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
全枝條代	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
秋蠶桑葉代	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
差引損	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
益	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

然れども縣下に於ける桑園收支状態の一斑を窺知せんが爲め各地の營業者に就き材料を蒐集せりこれ元より甚だ杜撰にして不完全なるを免れざるも掲げて参考に資せんとす

第一表 桑園收支計算材料調査

大正四年十月調

桑園收支計算材料に供せんが爲め各地の營業者に就き材料を蒐集せり其概要左に表しせるが如し

然れども本調査は元より直ちに收支計算を行ふ爲めに調査せるものに非れば差引損益計算を掲げたるか如きは甚だ不合理なる事なれども只對照上算出せるに過ぎず、尙左の如き事項に注意し熟覽を望む

「地代」は各人により異なるは勿論なるも不明なるあり、或は自家所有地にして掲載せざるもの及、贖税、諸掛を以て換へたるもの或は小作料を算出せるもの等ありて一様ならず

「桑苗及植付人夫賃」の如きは植付當年の支出なるも特に掲出せしめたり

「肥料」は普通の年に使用するものを示す其の購入せるものは略正確なるも自家にて生産せるものは見積によれり
「人夫賃」自家勢力によるものは正確に知り難きもの多し
「損料其他雜費」凡て概算を示す
「桑葉其他雜收入」の數量及價格の普通を認むる概算量及見積價格を示す
「本調査に於ては桑苗及植付等に関する支出は植付當時の支出を算出し其他は數年後に於ける現在を示せるか故に差引損益計算は一致せざるものとす又凡て調査せる年によりて大なる相違を生ずるは勿論殊に高木仕立の如きは長年月に亘るを以て其調査せる年によりて著しき差あるは免れざるなりとす

營業者	支		出		收		入		摘要	
	地代	桑苗	肥料	手間賃	損料	雜費	計	春蠶期收穫	秋蠶期收穫	計
松江市	三百圓(賣買時價)	千二百本	人屎尿 四石八斗 鯪ノ粕 一石 堆肥 一石	耕耘 四人 其他自家勢力不詳	農具損料	雜費	計	春蠶期收穫 稚蠶期 100(20錢) 壯蠶期 200(3錢)	秋蠶期收穫 摘葉量 150(2錢) 小計	計
八束郡秋鹿村		千八十本						春蠶期收穫	稚蠶期 60(20錢) 壯蠶期 20(3錢)	計
吉岡龜太郎								春蠶期收穫	稚蠶期 60(20錢) 壯蠶期 20(3錢)	計

仁多郡三成村
西村林三郎

地代	桑苗	肥料	手間賃	農具損料	計	
米三斗より一石七斗 至自 三〇〇〇	密植四千五百本(一本二錢三厘) 至自 一五〇〇	人尿 八〇〇〇 過磷酸石灰 一〇〇〇 鮮油粕類 六〇〇 其他アムモ 一〇〇 至自 一〇〇〇	植付 男十人 耕除 男五人 施肥 男五人 收穫 男五人 結東 女一人 解束 女一人 霜防 男一人 至自 一六〇〇	至自 一〇〇〇 至自 一五〇〇	至自 一〇〇〇 至自 一五〇〇	
收穫期	收穫期	收穫期	收穫期	收穫期	收穫期	
稚蠶期なし	稚蠶期 三〇〇(三錢)	小計 100(10錢)	摘葉量 100(10錢)	摘葉量 100(10錢)	摘葉量 100(10錢)	
至自 三〇〇〇	至自 〇〇〇	至自 〇〇〇	至自 〇〇〇	至自 〇〇〇	至自 〇〇〇	
作付反別 五反歩	内日市 二畝 小桑 二畝 赤桑 二畝 魯桑 一畝 至自 一畝二畝	明治四十五年 明治四十四年	距離 畦間四尺一五尺 株間二尺一三寸 實生 畦間三尺 株間八寸	仕立法 魯桑中刈其他根刈 實生は秋蠶用其他春秋蠶兼用 收穫 秋蠶用は植付初年より其他 は植付翌年秋期より收穫其方法 は秋蠶期中は摘葉三輪後伐採秋蠶 期に於て全葉數の三分の一を採	差引 損益 一七七〇	差引 損益 一七七〇

大原郡神原村農會

地代	桑苗	肥料	人夫賃	計
米九斗(一石十四圓) 千八百八十本(村農會配付)	大豆粕三玉 一畝 過磷酸石灰 一畝 硫酸アンモニヤ 一畝 硫酸アンモニヤ 一畝 硫酸アンモニヤ 一畝 植付八人(一人二七錢) 問作大豆播種四歩 (一人二〇錢) 〇.140	無代	施肥二回五人 耕除一回四人 除草二人 補植間作大豆三人七分 補植五歩 嫩一挺 大豆種一升五合 標札二本 至自 六五〇	至自 六五〇
收穫期	收穫期	收穫期	收穫期	收穫期
摘葉量 八五〇	大豆二斗 穗木七貫 至自 三三〇	至自 三三〇	至自 三三〇	至自 三三〇
作付反別 一反歩	内 六畝歩 赤木 四畝歩 魯桑 四畝歩	明治四十四年春期 畦間三尺八寸 株間二尺四寸 本數 千八百八十本	仕立法 根刈仕立 春秋蠶兼用	差引 損益 一七七〇

飯石郡一宮村
杉原久太郎

地代	桑苗	肥料	人夫賃	雜費	計
一反歩換算 九百五十本 大豆粕六枚 堆肥六百貫 山草三百貫	大豆粕八玉 特別六號三畝 藥五百八十貫 大豆粕二玉 收穫十一人 耕除九人八分五厘 施肥九人八分五厘 除草一人五分 結東一人五分 補植一人	至自 三三〇	至自 三三〇	至自 三三〇	至自 三三〇
收穫期	收穫期	收穫期	收穫期	收穫期	收穫期
稚蠶期なし	稚蠶期 三〇〇(三錢)	小計 100(10錢)	摘葉量 100(10錢)	摘葉量 100(10錢)	摘葉量 100(10錢)
至自 三〇〇〇	至自 〇〇〇	至自 〇〇〇	至自 〇〇〇	至自 〇〇〇	至自 〇〇〇
作付反別 六反歩	内 一反二畝歩 魯桑 一反三畝歩 赤木 一反三畝歩 多前早生 八畝歩 雲龍 二反七畝歩	明治三十年 明治三十五年 三十四年 三十六年	距離 畦間四尺一五尺 株間二尺一三寸 實生 畦間三尺 株間八寸	仕立法 魯桑中刈其他根刈 實生は秋蠶用其他春秋蠶兼用 收穫 秋蠶用は植付初年より其他 は植付翌年秋期より收穫其方法 は秋蠶期中は摘葉三輪後伐採秋蠶 期に於て全葉數の三分の一を採	差引 損益 一七七〇

飯石郡波多村 長島 連造		飯石郡三刀屋村 駿馬 智範	
地代	肥料	地代	肥料
米反當四斗 三反五畝歩 一石四斗	綠肥、糞、人糞尿、魚肥 植付男三十八人 耕男二十五人 除草女四十五人 施肥男十五人 收穫男三十人 結束男一人 病蟲害驅除男五人 年々の整枝男十人	米反當八斗 千二百本(一本一錢) 厩肥千八百貫 人糞尿三十荷 植付男二人 耕男十二人 除草女二人 施肥男五人 收穫女八人 結束女二人 結束男一人	米反當一石 二百本(一反歩當り) 厩肥三五〇貫 水肥五石 人尿尿五石 植付男十人 耕男八人 除草男三人 施肥男六人 收穫男二人 結束女四人
1600	3000	8000	2000
收穫期	夏秋期 其他 雜收入	收穫期	夏秋期
壯蠶期 枝條見積 小計 摘葉量 間作物	500(一三錢) 500 500(一三錢) 500	壯蠶期 枝條 小計 摘葉量 間引桑 秋期摘葉 小計	壯蠶期 枝條 小計 摘葉量
5000	5000	6000	10000
作付反別 三反五畝歩 內 桑 四畝 赤木 四畝 小牧 二反三畝 普桑實生 四畝 全反別に對する收支計算なり 植付年明治三十九年 高刈一反歩 百五十本 根刈一反歩 千二百本 仕立法 高刈七割 根刈二割 秋蠶専用一割 收穫 植付後三年目より收穫 高刈は七年目迄間引き八年目よ り春夏折刈 根刈に二年目よ り毎年夏刈 勢力は八割五歩は自家勞力なり	作付反別 二反歩 內 桑 一反八畝歩 小牧 二畝歩 植付 植付年五年目 距離 一間四方 一間半四方 反當 百五十本 三百本 仕立法 高刈、中刈(蠶用) 根刈(夏秋蠶専用) 收穫 植付初年より秋蠶に給株を利用 し四年目迄は春切をなし春蠶期 に練枝をなし秋蠶期に稍枝を利 用にし五年目より夏切を行ひて春 蠶に給す		
10000	10000	10000	10000
差引 益	差引 損	差引 益	差引 損
10000	10000	10000	10000

飯石郡波多村 飯石郡頓原村 森山爲三郎		飯石郡志々村 永田 榮爾	
地代	肥料	地代	肥料
自家所有地にて地代なし 百九十本(一本七厘) 厩肥又堆肥二五〇貫 下肥十荷 木灰四斗	植付女一人 耕男七人 除草女五人 施肥男五人 收穫女一人 結束男一人 病蟲害驅除男五分	米反當一石 二百本(一反歩當り) 厩肥三五〇貫 水肥五石 人尿尿五石 植付男十人 耕男八人 除草男三人 施肥男六人 收穫男二人 結束女四人	米反當一石 二百本(一反歩當り) 厩肥三五〇貫 水肥五石 人尿尿五石 植付男十人 耕男八人 除草男三人 施肥男六人 收穫男二人 結束女四人
0	8500	2000	2000
收穫期	夏秋期	收穫期	夏秋期
壯蠶期 枝條 小計 摘葉量	100(一〇錢)	植付五年目收穫 壯蠶期 枝條 小計 摘葉量	壯蠶期 枝條 小計 摘葉量
10000	10000	10000	10000
作付反別 一反六畝七歩 內 桑 九畝十五歩 赤木 六畝三十二歩 小牧 明治三十九年 大正二年 三年 距離 三尺 四尺 畦間 一尺 四尺 本 一反歩當り 百八十本 千二百本 仕立法 赤木は中刈にて春蠶専用 小牧は根刈秋蠶専用 收穫 赤木は植付後三年目より刈取り 小牧は二年目より葉を摘採す 勢力は凡て自家勞力によるもの なり	作付反別 二反歩 內 桑 一反八畝歩 小牧 二畝歩 植付 植付年五年目 距離 一間四方 一間半四方 反當 百五十本 三百本 仕立法 高刈、中刈(蠶用) 根刈(夏秋蠶専用) 收穫 植付初年より秋蠶に給株を利用 し四年目迄は春切をなし春蠶期 に練枝をなし秋蠶期に稍枝を利 用にし五年目より夏切を行ひて春 蠶に給す		
10000	10000	10000	10000
差引 益	差引 損	差引 益	差引 損
10000	10000	10000	10000

鏡川郡荒木村
金榮興市

地代	肥料	手問費	農具損料	計
千三百本 堆肥二七貫 水肥五〇貫 春秋同額ノモノヲ用フ	植付男三人 耕回男七人 除草男八人 施肥女五人 結東女五分 解東男一人 其他整理男一人 萎縮病男三人 桑直男四人	植付男三人 耕回男七人 除草男八人 施肥女五人 結東女五分 解東男一人 其他整理男一人 萎縮病男三人 桑直男四人	結東女一人 解東女三分 病蟲害驅除女五人	15000 10000 35000 15000 50000
收穫期	收穫期	收穫期	收穫期	收穫期
收穫期不明	收穫期不明	收穫期不明	收穫期不明	收穫期不明
15000	10000	35000	15000	50000
作付反別 一町二反歩	市内平 八畝歩	國富平 五畝歩	市平 六反五畝歩	市内平 四反二畝歩
植付 國富平 明治三十八年	市平 明治三十八年	國富平 明治三十八年	市平 明治三十八年	市内平 明治三十八年
距離 畦間四尺	畦間四尺	畦間四尺	畦間四尺	畦間四尺
反當植付本數 千三百本	反當植付本數 千三百本	反當植付本數 千三百本	反當植付本數 千三百本	反當植付本數 千三百本
仕立法 根刈 春秋兼用	仕立法 根刈 春秋兼用	仕立法 根刈 春秋兼用	仕立法 根刈 春秋兼用	仕立法 根刈 春秋兼用
收穫 植付年より收穫す	收穫 植付年より收穫す	收穫 植付年より收穫す	收穫 植付年より收穫す	收穫 植付年より收穫す
收穫法 春秋取 秋二圃摘葉	收穫法 春秋取 秋二圃摘葉	收穫法 春秋取 秋二圃摘葉	收穫法 春秋取 秋二圃摘葉	收穫法 春秋取 秋二圃摘葉
主として自家勞力なれども一反歩に對して五六人の備役をなす	主として自家勞力なれども一反歩に對して五六人の備役をなす	主として自家勞力なれども一反歩に對して五六人の備役をなす	主として自家勞力なれども一反歩に對して五六人の備役をなす	主として自家勞力なれども一反歩に對して五六人の備役をなす
差引 益	差引 益	差引 益	差引 益	差引 益
15000	10000	35000	15000	50000

安濃郡長久村
山崎喜太郎

地代	肥料	手問費	農具損料	計
植付數九百本 補植數十本 (一錢)	魚肥二貫 磷肥三〇貫 糞肥三〇貫	植付男七人 耕回男六人 除草男六人 施肥女六人 結東女六人 解東女六人	結東女一人 解東女三分 病蟲害驅除女五人	11000 11000 22000 11000 45000
收穫期	收穫期	收穫期	收穫期	收穫期
收穫期不明	收穫期不明	收穫期不明	收穫期不明	收穫期不明
11000	11000	22000	11000	45000
作付反別 一反三畝歩	市内平 四畝十五歩	國富平 五畝歩	市平 二反六畝十五歩	市内平 四畝十五歩
植付 市平 明治四十三年	國富平 明治四十三年	市平 明治四十三年	市内平 明治四十三年	市内平 明治四十三年
距離 畦間四尺	畦間四尺	畦間四尺	畦間四尺	畦間四尺
反當植付本數 九百本	反當植付本數 九百本	反當植付本數 九百本	反當植付本數 九百本	反當植付本數 九百本
仕立法 根刈 春秋兼用	仕立法 根刈 春秋兼用	仕立法 根刈 春秋兼用	仕立法 根刈 春秋兼用	仕立法 根刈 春秋兼用
收穫 植付三年目より收穫	收穫 植付三年目より收穫	收穫 植付三年目より收穫	收穫 植付三年目より收穫	收穫 植付三年目より收穫
收穫法 春秋五圃期ニ伐採シ秋期摘葉	收穫法 春秋五圃期ニ伐採シ秋期摘葉	收穫法 春秋五圃期ニ伐採シ秋期摘葉	收穫法 春秋五圃期ニ伐採シ秋期摘葉	收穫法 春秋五圃期ニ伐採シ秋期摘葉
主として自家勞力なれども一反歩に對して五六人の備役をなす	主として自家勞力なれども一反歩に對して五六人の備役をなす	主として自家勞力なれども一反歩に對して五六人の備役をなす	主として自家勞力なれども一反歩に對して五六人の備役をなす	主として自家勞力なれども一反歩に對して五六人の備役をなす
差引 益	差引 益	差引 益	差引 益	差引 益
11000	11000	22000	11000	45000

邑智郡口羽村
三田龜一

地代	肥料	手問費	農具損料	計
植付數九百本 補植數百本 (一錢)	下肥二〇貫 蠶肥六〇貫	植付男九人 耕回男三人 除草男一人	結東女一人 解東女三分 病蟲害驅除女一人	11000 11000 22000 11000 45000
收穫期	收穫期	收穫期	收穫期	收穫期
收穫期不明	收穫期不明	收穫期不明	收穫期不明	收穫期不明
11000	11000	22000	11000	45000
作付反別 一反歩	市内平 四畝十五歩	國富平 五畝歩	市平 二反六畝十五歩	市内平 四畝十五歩
植付 明治四十三年	國富平 明治四十三年	市平 明治四十三年	市内平 明治四十三年	市内平 明治四十三年
距離 畦間四尺	畦間四尺	畦間四尺	畦間四尺	畦間四尺
反當植付本數 九百本	反當植付本數 九百本	反當植付本數 九百本	反當植付本數 九百本	反當植付本數 九百本
仕立法 根刈 春秋兼用	仕立法 根刈 春秋兼用	仕立法 根刈 春秋兼用	仕立法 根刈 春秋兼用	仕立法 根刈 春秋兼用
收穫 植付三年目より收穫	收穫 植付三年目より收穫	收穫 植付三年目より收穫	收穫 植付三年目より收穫	收穫 植付三年目より收穫
收穫法 春秋五圃期ニ伐採シ秋期摘葉	收穫法 春秋五圃期ニ伐採シ秋期摘葉	收穫法 春秋五圃期ニ伐採シ秋期摘葉	收穫法 春秋五圃期ニ伐採シ秋期摘葉	收穫法 春秋五圃期ニ伐採シ秋期摘葉
主として自家勞力なれども一反歩に對して五六人の備役をなす	主として自家勞力なれども一反歩に對して五六人の備役をなす	主として自家勞力なれども一反歩に對して五六人の備役をなす	主として自家勞力なれども一反歩に對して五六人の備役をなす	主として自家勞力なれども一反歩に對して五六人の備役をなす
差引 損	差引 損	差引 損	差引 損	差引 損
11000	11000	22000	11000	45000

美濃郡高城村 田中 未治		美濃郡中西村 間庭 儀作	
地代	桑苗	肥料	手間賃
小作米一石三斗 補込數九百本 植込數五十本(一錢)	肥三〇〇貫 大豆箱二八貫 植付男二〇人 耕男五五人 除草男二五人 施肥男二五人 收穫男一〇人 結東女一人 病蟲害驅除女二人 其他男二人	米(八斗) 補込數九百六十本 植込數四十本 肥三〇〇貫 油粕四〇貫 植付男六人 耕男六人 收穫男三人 結東男二人 病蟲害驅除男一人 其他女三人	計
1,300	9,200	10,000	1,000
收穫期	收穫期	收穫期	收穫期
稚蠶期 壯蠶期 小計	稚蠶期 壯蠶期 小計	稚蠶期 壯蠶期 小計	稚蠶期 壯蠶期 小計
五(五〇錢) 三〇(一〇〇錢) 三三	五(五〇錢) 三三(九錢) 三三	五(五〇錢) 三三(二錢) 三〇(二錢)	五(五〇錢) 三三(一〇錢) 一〇〇
2,000	2,000	2,000	2,000
作付反別 二反七畝步 内 早生 一反一畝步 中生 八畝步 晩生 八畝步	作付反別 二反七畝步 内 早生 一反一畝步 中生 八畝步 晩生 八畝步	作付反別 五反步 内 早生 八畝步 中生 二反四畝步 晩生 一反八畝步	作付反別 八反步 内 早生 一反五畝步 中生 四反步 晩生 二反五畝步
2,000	2,000	2,000	2,000
差引損	差引損	差引損	差引損
3,800	3,800	3,800	3,800

四五四

美濃郡茂村 佐々木 畢太郎		鹿足郡木部村 無藤 宗市	
地代	桑苗	肥料	手間賃
小作米六斗 補込數九百本 植込數三十本 青草五百貫 大豆箱二貫 植付男一五人 耕男八人 除草男一人 施肥男一人 收穫男一人 結東女一人 病蟲害驅除女二人 其他女三人 結東解東なし	雜草一、〇〇〇貫 人糞尿二〇〇貫 植付男一〇人 耕男三人 除草男一人 結東男一人 施肥男一人 收穫男一人 結東女一人	小作米二斗 二千七百本 雜草一、〇〇〇貫 人糞尿二〇〇貫 植付男一〇人 耕男三人 除草男一人 結東男一人 施肥男一人 收穫男一人 結東女一人	計
6,000	9,200	10,000	1,000
收穫期	收穫期	收穫期	收穫期
稚蠶期 壯蠶期 小計	稚蠶期 壯蠶期 小計	稚蠶期 壯蠶期 小計	稚蠶期 壯蠶期 小計
四(五〇錢) 二〇(一〇〇錢) 二四	三三(二錢) 三三 三三	五(六〇錢) 三〇(八錢) 三三(六錢)	五(六〇錢) 三〇(八錢) 三三(六錢)
2,000	2,000	2,000	2,000
作付反別 八反步 内 早生 一反五畝步 中生 四反步 晩生 二反五畝步	作付反別 八反步 内 早生 一反五畝步 中生 四反步 晩生 二反五畝步	作付反別 一反一畝二十步 内 魯桑實生 一反步 化桑 一畝二十步 植付 明治四十年、四十三年、 大正二年 畦間四尺 株間三尺 一尺	作付反別 一反一畝二十步 内 魯桑實生 一反步 化桑 一畝二十步 植付 明治四十年、四十三年、 大正二年 畦間四尺 株間三尺 一尺
2,000	2,000	2,000	2,000
差引損	差引損	差引損	差引損
3,800	3,800	3,800	3,800

四五五

第三表 仕立別桑園收支計算
飯石郡に於て調査せし各仕立別收支計算左の如し

支	中		高		收	中		高		
	刈	刈(秋田式)	刈	刈(秋田式)		刈	刈(秋田式)	刈	刈(秋田式)	
肥料	春肥 人糞 六石 六貫	夏肥 人糞 六石 六貫	春肥 人糞 六石 六貫	夏肥 人糞 六石 六貫	春肥 人糞 六石 六貫	夏肥 人糞 六石 六貫	春肥 人糞 六石 六貫	夏肥 人糞 六石 六貫	春肥 人糞 六石 六貫	
人夫賃	中耕 春六人 夏五人 男	夏五男	中耕 春六人 夏五人 男	夏五男	中耕 春六人 夏五人 男	夏五男	中耕 春六人 夏五人 男	夏五男	中耕 春六人 夏五人 男	
除草	株直 男一	株直 男一	株直 男一	株直 男一	株直 男一	株直 男一	株直 男一	株直 男一	株直 男一	
收穫	補植 男一	補植 男一	補植 男一	補植 男一	補植 男一	補植 男一	補植 男一	補植 男一	補植 男一	
結束	結束 女一	結束 女一	結束 女一	結束 女一	結束 女一	結束 女一	結束 女一	結束 女一	結束 女一	
解除	解除 女〇.五	解除 女〇.五	解除 女〇.五	解除 女〇.五	解除 女〇.五	解除 女〇.五	解除 女〇.五	解除 女〇.五	解除 女〇.五	
病蟲害	病蟲害 男一	病蟲害 男一	病蟲害 男一	病蟲害 男一	病蟲害 男一	病蟲害 男一	病蟲害 男一	病蟲害 男一	病蟲害 男一	
農具損料	農具損料 一担	農具損料 一担	農具損料 一担	農具損料 一担	農具損料 一担	農具損料 一担	農具損料 一担	農具損料 一担	農具損料 一担	
原價	原價 二割 子年 一割 耐久 五年 錢 耐久 五年 利 子年 二割	原價 二割 子年 一割 耐久 五年 錢 耐久 五年 利 子年 二割	原價 二割 子年 一割 耐久 五年 錢 耐久 五年 利 子年 二割	原價 二割 子年 一割 耐久 五年 錢 耐久 五年 利 子年 二割	原價 二割 子年 一割 耐久 五年 錢 耐久 五年 利 子年 二割	原價 二割 子年 一割 耐久 五年 錢 耐久 五年 利 子年 二割	原價 二割 子年 一割 耐久 五年 錢 耐久 五年 利 子年 二割	原價 二割 子年 一割 耐久 五年 錢 耐久 五年 利 子年 二割	原價 二割 子年 一割 耐久 五年 錢 耐久 五年 利 子年 二割	原價 二割 子年 一割 耐久 五年 錢 耐久 五年 利 子年 二割
雜收入	雜收入 枝條量	雜收入 枝條量	雜收入 枝條量	雜收入 枝條量	雜收入 枝條量	雜收入 枝條量	雜收入 枝條量	雜收入 枝條量	雜收入 枝條量	
秋期	秋期 收穫量	秋期 收穫量	秋期 收穫量	秋期 收穫量	秋期 收穫量	秋期 收穫量	秋期 收穫量	秋期 收穫量	秋期 收穫量	
夏期	夏期 收穫量	夏期 收穫量	夏期 收穫量	夏期 收穫量	夏期 收穫量	夏期 收穫量	夏期 收穫量	夏期 收穫量	夏期 收穫量	
春期	春期 收穫量	春期 收穫量	春期 收穫量	春期 收穫量	春期 收穫量	春期 收穫量	春期 收穫量	春期 收穫量	春期 收穫量	
單價	單價 價格	單價 價格	單價 價格	單價 價格	單價 價格	單價 價格	單價 價格	單價 價格	單價 價格	
價格	價格 價格	價格 價格	價格 價格	價格 價格	價格 價格	價格 價格	價格 價格	價格 價格	價格 價格	
計	計 計	計 計	計 計	計 計	計 計	計 計	計 計	計 計	計 計	

第四表 桑葉價格
收支計算の材料に資せんが爲め調査せる桑葉の價格左の如し

種別	春蠶期				
	一齡	二齡	三齡	四齡	五齡
八東	八〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇
能義	一〇〇〇	八〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇
仁多	八〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇
大原	六〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇
飯石	七〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇
兼川	六〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇
安濃	九〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇
遜摩	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
邑智	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
那賀	六〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇
美濃	七〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇
鹿足	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
隱岐	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

種別	初年目	二年目	三年目	四年目	五年目
支出	掛米八斗 (一石十一圓) 八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇
小作料	千二百木代 一三〇〇	一	一	一	一
人夫賃	八二〇〇 耕耘六人、畦堀三人、植付五人、除草五人、施肥三人、大豆收穫三人、摘葉二人(人夫一人廿錢)	八二〇〇 耕耘除草十五人、桑摘五人、大豆收穫三人、施肥五人	九六〇〇 耕耘除草十五人、結立二人、施肥五人、摘葉十二人	一〇二〇〇 耕耘除草十五人、結立二人、施肥五人(春八人)	全前年
肥料代	堆肥(〇貫十貫六錢) 人屎尿十三荷(十七錢) 四二〇〇	厩肥(〇貫六錢) 大豆粕八貫(一六〇) 下肥十荷(十七錢) 硫酸二貫(四十錢) 六五〇〇	全前年	全前年	全前年
畦間播種用大豆	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇
收入	桑葉代(秋期摘葉三十貫) 三〇〇〇	秋二回六十貫 六〇〇〇	春二回三十貫 三〇〇〇	春二回三十貫 三〇〇〇	春二回三十貫 三〇〇〇
接穗代	一(三十貫十五錢) 四三〇	四三〇	一	一	一
大豆代(五斗)	五〇〇〇(三斗) 一八〇〇	五〇〇〇	一	一	一
計	△ 三二八〇〇	△ 一〇一〇〇	△ 一八〇〇〇	〇	一三〇〇〇
差引	三二八〇〇	一〇一〇〇	一八〇〇〇	一三〇〇〇	三二八〇〇

飯石郡

根刈桑園

五六年頃以後のもの

種別	上	中	畑	普通畑	平均	
收入	三十圓四十五錢	二十圓	二十圓	二十圓	二十圓	
支	内譯 〔春期二百貫 一貫多十錢 秋期八十貫 十三錢〕 廿六圓七十四錢	内譯 借地料 十三圓	内譯 肥料 七圓八十錢 (厩肥四〇〇貫(七錢) 人屎尿一〇〇貫(二十錢) 硫酸一〇貫(三圓)) 人夫 五圓九十四錢 (耕耘七人、施肥六人、管理五人、一人三十三錢)	内譯 借地料 十三圓	内譯 借地料 十三圓	内譯 借地料 十三圓
差引	三圓六十六錢 益	三圓	三圓	三圓	三圓	
支出	自分所有地自作 公租其他 三圓 肥料 十八圓 耕耘人夫賃 七圓五十錢 打返男五人 草取女八人 株直男八人 施肥男六人	春蠶期 桑葉二百貫 代三十圓 秋蠶期 百貫 十四圓 晚秋蠶 七十貫 六圓三十錢 計 五十圓三十錢	春蠶期 桑葉二百貫 代三十圓 秋蠶期 百貫 十四圓 晚秋蠶 七十貫 六圓三十錢 計 五十圓三十錢	春蠶期 桑葉二百貫 代三十圓 秋蠶期 百貫 十四圓 晚秋蠶 七十貫 六圓三十錢 計 五十圓三十錢	春蠶期 桑葉二百貫 代三十圓 秋蠶期 百貫 十四圓 晚秋蠶 七十貫 六圓三十錢 計 五十圓三十錢	
計	二十八圓五十錢	差引 二十一圓八十錢 利	差引 二十一圓八十錢 利	差引 二十一圓八十錢 利	差引 二十一圓八十錢 利	

大森支所内 (邇摩、安濃郡)

年次	春期新梢	桑條	間引	秋蠶	支計	掛り出	肥料代	手間費	差計
初年	三十一圓五十錢	六十錢	一圓五十錢	九圓六十錢	九圓十五錢	地價三十圓價格二倍半の七歩年利息五圓廿五錢諸上納十三掛三圓九十錢	十一圓六十八錢	四圓五十五錢	十七圓八十二錢
二年	十八圓	四十錢	五圓六十錢	二十四圓	六圓七十五錢	地價廿五圓價格二倍年利息七分三圓五十錢上納掛三圓二十五錢	七圓十錢	全上	五圓六十錢
三年	二百貫	九錢	七十七貫	八錢	六圓七十五錢	地價廿五圓價格二倍年利息七分三圓五十錢上納掛三圓二十五錢	七圓十錢	全上	五圓六十錢
四年	九圓二十七錢	三十錢	二圓七十二錢	十二圓廿九錢	三圓四十二錢	地價十八圓價格十八圓の年利七分の利息一圓二十六錢諸上納十二掛二圓十六錢	一圓八十四錢	全上	三圓八十八錢
五年	一〇三貫	十九圓五十九錢	三圓四貫	三圓四貫	三圓四貫	地價十八圓價格十八圓の年利七分の利息一圓二十六錢諸上納十二掛二圓十六錢	一圓八十四錢	全上	三圓八十八錢
六年	十九圓五十九錢	三圓四貫	三圓四貫	三圓四貫	三圓四貫	地價十八圓價格十八圓の年利七分の利息一圓二十六錢諸上納十二掛二圓十六錢	一圓八十四錢	全上	三圓八十八錢
七年	十九圓五十九錢	三圓四貫	三圓四貫	三圓四貫	三圓四貫	地價十八圓價格十八圓の年利七分の利息一圓二十六錢諸上納十二掛二圓十六錢	一圓八十四錢	全上	三圓八十八錢
八年	十九圓五十九錢	三圓四貫	三圓四貫	三圓四貫	三圓四貫	地價十八圓價格十八圓の年利七分の利息一圓二十六錢諸上納十二掛二圓十六錢	一圓八十四錢	全上	三圓八十八錢
九年	十九圓五十九錢	三圓四貫	三圓四貫	三圓四貫	三圓四貫	地價十八圓價格十八圓の年利七分の利息一圓二十六錢諸上納十二掛二圓十六錢	一圓八十四錢	全上	三圓八十八錢
十年	十九圓五十九錢	三圓四貫	三圓四貫	三圓四貫	三圓四貫	地價十八圓價格十八圓の年利七分の利息一圓二十六錢諸上納十二掛二圓十六錢	一圓八十四錢	全上	三圓八十八錢

美濃郡

初年	二年目	三年目	通計	支出	收入	差計
地代	一反歩玄米七斗六升 一石十一圓	六百本代 一本一錢五厘		八三〇	八三〇	〇
苗木	施肥耕種植付人夫二十人 一人二十六錢	山草三百貫(五錢) 厩肥二百貫(七錢) 人尿尿二百貫(二圓五十錢)		二七〇〇	二七〇〇	〇
人夫費	十四人			一四〇〇	一四〇〇	〇
肥料				一八六五〇	一八六五〇	〇
肥料代				一八六五〇	一八六五〇	〇
桑業	初年の施用量に人尿尿百貫を加ふ			一四〇〇	一四〇〇	〇
問作物	大豆 一斗五十錢			一四〇〇	一四〇〇	〇
支出	百九十五圓八十一錢			二〇〇〇	二〇〇〇	〇
收入	二百十二圓九十錢			二〇〇〇	二〇〇〇	〇
損	四十九圓二十六錢			八〇〇	八〇〇	〇

益 六十六圓三十五錢
差引 十七圓九錢 純益

第六表

明治四十四年農商務省に於て調査せし桑樹栽培業の收支計算に付本縣外主なるものを援掲すれば左の如し

桑樹栽培業收支細目

(明治四十四年第一次)

項目	島根		島取		長野		愛知		福島		群馬		熊本		平均	
	肥料價額	人夫費	肥料價額	人夫費	肥料價額	人夫費	肥料價額	人夫費	肥料價額	人夫費	肥料價額	人夫費	肥料價額	人夫費	肥料價額	人夫費
支出	11,256	7,627	11,313	6,999	10,753	6,753	12,740	9,000	11,008	6,761	11,241	7,501	11,008	9,317	11,141	7,627
收入	11,256	7,627	11,313	6,999	10,753	6,753	12,740	9,000	11,008	6,761	11,241	7,501	11,008	9,317	11,141	7,627
差引損益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第七表 桑作法

舊藩治時代に於て記録に残りたる養蠶及び桑畑の收支計算あり面白ければ参考の爲め掲げん

桑作法

一畑一反歩
 此種付 桑三百本
 三年目にて 此桑三百貫匁
 代錢二百十貫文 但一貫目に付錢七百文づつ、
 右刈桑に致候得ば作物は七歩位出來尤も出來候得ば作物も夫々準じ四五歩位可相成候且桑一間植付候得ば一反歩に六百株植付可申事備
 又作法は其時節々に見廻傳授可致候
 右桑葉三百貫匁にして養蠶勸定
 一養蠶庭 七十五枚 但一枚に付桑葉四貫匁宛
 此出來苗 二十六貫二百五十匁 但一枚に付三百五十匁宛
 上繭二十二貫三百二十匁五分 但八歩五厘にして
 代五百五十七貫八百十二文五分(但百匁に付二貫五百文宛)
 大繭九百三十七匁五分 但一步五厘にして
 代四十九貫二百十四文 (但百匁に付七貫二百五文宛)
 計 六百七貫三十一文二歩五厘
 内
 百十二貫五百匁 蠶種紙 三枚代
 但一枚に付三十七貫五百文宛

大原郡大東町 松村佐太郎		仁多郡三成村 石田梅太郎	
地代	肥料	地代	肥料
小作米一石八斗 人糞尿一〇荷 厩肥四〇五〇荷 灰一〇俵	11,000 11,000 11,000 11,000	小作米一石七斗 厩肥一〇俵	7,000 7,000
接苗材料 人夫賃	接苗材料 人夫賃	接苗材料 人夫賃	接苗材料 人夫賃
接木四〇貫 接根四〇貫	接木四〇貫 接根四〇貫	接木六〇貫 接根六〇貫	接木六〇貫 接根六〇貫
10,000 10,000	10,000 10,000	12,000 12,000	12,000 12,000
計	計	計	計
11,000	11,000	18,700	18,700
生産苗	生産苗	生産苗	生産苗
上苗 10,100本 中苗 100本 下苗 50本	上苗 7,500本(二厘) 中苗 1,500本(六厘) 下苗 700本(二厘)	上苗 8,000本(三厘) 中苗 4,000本(八厘) 下苗 2,000本(三厘)	上苗 8,000本(三厘) 中苗 4,000本(八厘) 下苗 2,000本(三厘)
10,100 100 50	7,500 1,500 700	8,000 4,000 2,000	8,000 4,000 2,000
雑収入	雑収入	雑収入	雑収入
桑葉 50貫(三錢) 小計	桑葉 50貫(三錢) 小計	根 110貫(三錢) 小計	根 110貫(三錢) 小計
50 50	50 50	110 110	110 110
10,150	10,150	10,100	10,100
苗畑反別 一反三畝歩 内 赤木 七畝歩 魯桑 三畝歩 元右衛門二畝歩 甲撰 一畝歩	苗畑反別 一反六畝歩 内 魯桑 三畝歩 赤木 一反一畝歩 九紋龍 一畝歩 多胡早生 一五歩 小牧 一五歩	苗畑反別 六畝歩 内 赤木 五畝十歩 魯桑 二〇歩	苗畑反別 六畝歩 内 赤木 五畝十歩 魯桑 二〇歩
10,150	10,150	10,100	10,100
反當伏込本數 15,000本 約七割販賣用	反當伏込本數 15,000本	反當伏込本數 10,000本 販賣用	反當伏込本數 10,000本 販賣用
15,000	15,000	10,000	10,000
差引益	差引益	差引益	差引益
15,000	15,000	6,700	6,700

飯石郡一宮村 杉原久太郎		飯石郡三刀屋村 中村庄太郎	
地代	肥料	地代	肥料
過燐酸石灰三〇貫 人糞尿一〇斗 堆肥五〇〇貫	11,000 11,000 11,000	小作米一石四斗 人糞尿一〇荷 硫安三貫 厩肥一〇〇貫	11,000 11,000 11,000 11,000
接苗材料 人夫賃	接苗材料 人夫賃	接苗材料 人夫賃	接苗材料 人夫賃
接苗五〇〇貫 接地男一五人 伏込男一五人 除草女一五人 掘取男七人 荷造男五人	接苗五〇〇貫 接地男一五人 伏込男一五人 除草女一五人 掘取男七人 荷造男五人	接苗男三五人 整地男五人 伏込男一人 除草女一人 掘取男一人 荷造男一人	接苗男三五人 整地男五人 伏込男一人 除草女一人 掘取男一人 荷造男一人
11,000 11,000 11,000 11,000 11,000 11,000	11,000 11,000 11,000 11,000 11,000 11,000	11,000 11,000 11,000 11,000 11,000 11,000	11,000 11,000 11,000 11,000 11,000 11,000
計	計	計	計
11,000	11,000	15,000	15,000
生産苗	生産苗	生産苗	生産苗
上苗 7,500本(二厘) 中苗 1,500本(六厘) 下苗 700本(二厘)	上苗 8,000本(一錢) 中苗 1,500本(五厘) 下苗 1,200本(二厘)	上苗 8,000本(一錢) 中苗 1,500本(五厘) 下苗 1,200本(二厘)	上苗 8,000本(一錢) 中苗 1,500本(五厘) 下苗 1,200本(二厘)
7,500 1,500 700	8,000 1,500 1,200	8,000 1,500 1,200	8,000 1,500 1,200
雑収入	雑収入	雑収入	雑収入
小計	小計	根 110貫(三錢) 小計	根 110貫(三錢) 小計
11,000	11,000	110 110	110 110
11,000	11,000	10,100	10,100
苗畑反別 一反六畝歩 内 魯桑 三畝歩 赤木 一反一畝歩 九紋龍 一畝歩 多胡早生 一五歩 小牧 一五歩	苗畑反別 一反四畝歩 内 赤木 一反歩 魯桑 四畝歩	苗畑反別 一反四畝歩 内 赤木 一反歩 魯桑 四畝歩	苗畑反別 一反四畝歩 内 赤木 一反歩 魯桑 四畝歩
11,000	11,000	10,100	10,100
反當伏込本數 15,000本	反當伏込本數 15,000本	反當伏込本數 15,000本 販賣用	反當伏込本數 15,000本 販賣用
15,000	15,000	15,000	15,000
差引益	差引益	差引益	差引益
15,000	15,000	15,000	15,000

飯石郡三刀屋村 菅田喜代市		飯石郡鍋山村 奥井登三郎		飯石郡多根村 永瀬善太郎	
地代	肥料	地代	肥料	地代	肥料
小作米一石八斗	魚肥四斗八升	小作米一石八斗	鮮ノ粕二五貫 アンモニア五貫 人糞尿一五貫	玄米一石三斗	人糞尿三〇荷 厩肥二〇荷
接苗女三〇人	整地男八人	接苗女八〇人	整地男一〇〇人	接苗女六九人	整地男八人
伏込男一人	耕取男一人	伏込男一人	耕取男一人	伏込男一人	伏込男一人
除草女一人	堀取男一人	除草女一人	堀取男一人	堀取男一人	堀取男一人
荷造男一人	荷造男一人	荷造男一人	荷造男一人	荷造男一人	荷造男一人
計	計	計	計	計	計
九〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
八〇〇〇	二〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
生産苗	雑収入	生産苗	雑収入	生産苗	雑収入
上苗 七五〇本(二厘)		上苗 八〇〇本(二厘)		上苗 八〇〇本(二厘)	
中苗 一五〇〇本(九厘)		中苗 一五〇〇本(七厘)		中苗 一五〇〇本(六厘)	
下苗 三〇〇〇本(四厘)		下苗 一五〇〇本(三厘)		下苗 八〇〇本(二厘)	
小計		小計		小計	
二〇〇〇		二〇〇〇		二〇〇〇	
反當伏込本數 一尺五寸		反當伏込本數 一尺五寸		反當伏込本數 一尺五寸	
苗畑反別 二反歩		苗畑反別 一反歩		苗畑反別 一反歩	
苗伏込距離 一尺五寸		苗伏込距離 一尺五寸		苗伏込距離 一尺五寸	
反當植込本數 一五〇〇〇本		反當植込本數 一五〇〇〇本		反當植込本數 一五〇〇〇本	
販賣用 三〇〇〇〇本		自家用 一〇〇〇本		自家用 一〇〇〇本	
差引 益		差引 益		差引 損	
二六〇〇〇		二四〇〇〇		一六〇〇〇	

飯石郡荒木村 川上傳之助		飯石郡荒木村 園山運之助		飯石郡荒木村 園山運之助	
地代	肥料	地代	肥料	地代	肥料
鮮ノ粕三〇貫	大豆粕六〇貫	鮮ノ粕二五貫	人糞尿一〇荷	鮮ノ粕二五貫	人糞尿一〇荷
人糞尿一〇荷	整地男一人	整地男一人	整地男一人	整地男一人	整地男一人
伏込男一人	堀取男一人	伏込男一人	堀取男一人	伏込男一人	堀取男一人
草取男一人	草取男一人	草取男一人	草取男一人	草取男一人	草取男一人
堀取男一人	堀取男一人	堀取男一人	堀取男一人	堀取男一人	堀取男一人
荷造男一人	荷造男一人	荷造男一人	荷造男一人	荷造男一人	荷造男一人
水取男一人	水取男一人	水取男一人	水取男一人	水取男一人	水取男一人
計	計	計	計	計	計
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
生産苗	雑収入	生産苗	雑収入	生産苗	雑収入
上苗 八〇〇本(二厘)		上苗 九〇〇本(二厘)		上苗 九〇〇本(二厘)	
中苗 八〇〇本(七厘)		中苗 一七〇〇本(五厘)		中苗 一七〇〇本(五厘)	
下苗 一三〇〇本(三厘)		下苗 二〇〇〇本(二厘)		下苗 二〇〇〇本(二厘)	
小計		小計		小計	
一〇〇〇		一〇〇〇		一〇〇〇	
反當伏込本數 一尺五寸		反當伏込本數 一尺五寸		反當伏込本數 一尺五寸	
苗畑反別 一反五歩		苗畑反別 三畝二十歩		苗畑反別 三畝二十歩	
苗伏込距離 一尺七寸五分		苗伏込距離 一尺七寸五分		苗伏込距離 一尺七寸五分	
反當植込本數 一五〇〇〇本		反當植込本數 一五〇〇〇本		反當植込本數 一五〇〇〇本	
販賣用 三〇〇〇〇本		自家用 一〇〇〇本		自家用 一〇〇〇本	
差引 益		差引 益		差引 益	
一六〇〇〇		一六〇〇〇		一六〇〇〇	

安濃郡大田町 森脇 二郎		篠川郡荒木村 金築 與市		接苗材料 其他雜費	
人夫賃	肥料代	人夫賃	肥料代	計	計
除取男二〇人 伏草女六人 整地男一人 接苗男一人 接苗女一人	過燐酸石灰二斗 硫酸アソ三貫 モロト五貫 大豆粕五個 調和燐酸一斗半 切葉一〇把	接苗男一人 接苗女一人 伏草男一人 除草男一人 圃取男一人 水取男一人	大豆粕六貫 過燐酸石灰五貫 堆肥三五貫 接苗一本一厘 整地男一人 伏草男一人 圃取男一人 水取男一人	六〇〇〇 八〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇	六〇〇〇 八〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
生産苗	生産苗	生産苗	生産苗		
上苗 七〇〇〇本(一四厘) 中苗 二〇〇〇本(七厘) 下苗 一〇〇〇本(四厘) 小計 一〇〇〇〇本	上苗 六〇〇〇本(一三厘) 中苗 一〇〇〇本(七厘) 下苗 二〇〇〇本(三厘) 小計 九〇〇〇本	上苗 六〇〇〇本(一錢) 中苗 二〇〇〇本(五厘) 下苗 二〇〇〇本(二厘)	上苗 六〇〇〇本(一錢) 中苗 二〇〇〇本(五厘) 下苗 二〇〇〇本(二厘)	六〇〇〇 一〇〇〇〇 四〇〇〇	六〇〇〇 一〇〇〇〇 四〇〇〇
二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇
苗畑反別 四反歩 内 白市平 一反四畝歩 魯桑 一反五畝歩 元右衛門 六畝歩 其他 五畝歩	苗畑反別 四反歩 内 白市平 一反四畝歩 魯桑 一反五畝歩 元右衛門 六畝歩 其他 五畝歩	苗畑反別 五畝歩 内 丸葉魯桑 二畝一五歩 丸葉十文字 二畝歩 國富 一五歩 市平 一五歩	苗畑反別 五畝歩 内 丸葉魯桑 二畝一五歩 丸葉十文字 二畝歩 國富 一五歩 市平 一五歩	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
反當伏込本數 一万四千本 苗伏込距離 一尺と四寸 苗伏込本數 一万四千本 苗伏込距離 一尺と四寸	反當伏込本數 一万四千本 苗伏込距離 一尺と四寸 苗伏込本數 一万四千本 苗伏込距離 一尺と四寸	反當伏込本數 一〇〇〇〇本 苗伏込距離 一尺八寸と五寸 反當伏込本數 一〇〇〇〇本 苗伏込距離 一尺八寸と五寸	反當伏込本數 一〇〇〇〇本 苗伏込距離 一尺八寸と五寸 反當伏込本數 一〇〇〇〇本 苗伏込距離 一尺八寸と五寸	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
差引 益	差引 益	差引 益	差引 益	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇

羅摩郡大濱村 青笹徳太郎		邑智郡川本村 波部源太郎		接苗材料 其他雜費	
人夫賃	肥料代	人夫賃	肥料代	計	計
荷造男二人 施肥男一人	既肥四〇〇貫 人糞尿八二貫 硫酸アソ二貫 十一〇貫	接苗男一人 整地男一人 伏草男一人 耕草男一人 除草男一人 圃取男一人	人糞尿八〇貫 過燐酸石灰一俵 干鏝二俵	六〇〇〇 八〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇	六〇〇〇 八〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
生産苗	生産苗	生産苗	生産苗		
上苗 六〇〇〇本(一三厘) 中苗 一〇〇〇本(七厘) 下苗 二〇〇〇本(三厘) 小計 九〇〇〇本	上苗 六〇〇〇本(一三厘) 中苗 一〇〇〇本(七厘) 下苗 二〇〇〇本(三厘) 小計 九〇〇〇本	上苗 一〇〇〇〇本(一〇厘) 中苗 二〇〇〇本(六厘) 下苗 一〇〇〇本(三厘) 小計 三〇〇〇本	上苗 一〇〇〇〇本(一〇厘) 中苗 二〇〇〇本(六厘) 下苗 一〇〇〇本(三厘) 小計 三〇〇〇本	六〇〇〇 一〇〇〇〇 二〇〇〇〇 二〇〇〇〇	六〇〇〇 一〇〇〇〇 二〇〇〇〇 二〇〇〇〇
二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇
苗畑反別 二反三畝歩 内 早生市平 三畝歩 中生魯桑 一畝歩 化桑 一反九畝歩 苗伏込距離 一尺二寸と四寸 反當伏込本數 一三〇〇〇本 販賣用	苗畑反別 二反三畝歩 内 早生市平 三畝歩 中生魯桑 一畝歩 化桑 一反九畝歩 苗伏込距離 一尺二寸と四寸 反當伏込本數 一三〇〇〇本 販賣用	苗畑反別 一反三畝歩 内 元右衛門 九畝歩 赤木 二畝歩 魯桑 二畝歩 苗伏込距離 一尺と六寸	苗畑反別 一反三畝歩 内 元右衛門 九畝歩 赤木 二畝歩 魯桑 二畝歩 苗伏込距離 一尺と六寸	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
差引 益	差引 益	差引 益	差引 益	一〇〇〇	一〇〇〇

那賀郡長濱村 村田 正吉		那賀郡三保村 中野 長市	
地代	肥料	地代	肥料
魚肥 混合液 三貫 調合肥料 一三貫 魚肥の液肥 五斗 糞 七斗 生草 七〇〇貫	接苗男 三六人 整地男 八人 伏込男 四人 耕取男 二人 除草男 一人 其他男 三人	硫酸アレンモニヤ 三貫 千貫 一三貫 三貫 五貫 底肥 三〇貫 人糞 五貫 新鮮干糞 一貫	接苗男 二三人 整地男 二五人 伏込男 五五人 耕取男 二五人 除草男 六六六 施肥男 六六六 堀取男 三三三 荷造男 二二二人
計	計	計	計
六〇〇〇	三三〇〇	一七五〇〇	一〇六〇〇
生産苗	雑収入	生産苗	雑収入
上苗 七五〇本(一〇厘) 中苗 一三〇〇本(六厘) 下苗 二二〇〇本(三厘) 小計 四二五〇本	雑木二三貫(三〇銭) 接根一二貫(四〇銭) 小計 三五貫	上苗 八六〇本(一〇厘) 中苗 二五〇本(七厘) 下苗 一六七〇本(三厘) 小計 一二八〇本	雑木見積 接根見積 小計
七五〇〇	三三〇〇	一〇六〇〇	一〇六〇〇
苗畑反別 一反歩	苗畑反別 一反六畝十五歩	苗畑反別 一反歩	苗畑反別 一反六畝十五歩
内 化桑 五畝一〇歩 魯桑 二畝一〇歩 赤木 一畝一〇歩 市平 一畝歩	内 化桑 一反歩 魯桑 二畝一五歩 赤木 一反歩 多前 三畝歩	内 島村 三畝歩 魯桑 一反七畝歩	内 島村 三畝歩 魯桑 一反七畝歩
差引 益 二五〇〇	差引 益 二三八〇	差引 益 一四六〇〇	差引 益 一四六〇〇

美濃郡吉田村 大加 茂市		美濃郡吉田村 大加 茂市	
地代	肥料	地代	肥料
大豆 九貫 アレンモニヤ 五貫 人糞 一五貫 米糠 一石二斗 腐敗 一石二斗	接苗男 三六人 整地男 七人 伏込男 七人 耕取男 六人 除草男 一人 荷造男 一人	接苗男 二三人 整地男 二五人 伏込男 五五人 耕取男 二五人 除草男 六六六 施肥男 六六六 堀取男 三三三 荷造男 二二二人	接苗男 二三人 整地男 二五人 伏込男 五五人 耕取男 二五人 除草男 六六六 施肥男 六六六 堀取男 三三三 荷造男 二二二人
計	計	計	計
一〇〇〇〇	三三〇〇	一七五〇〇	一〇六〇〇
生産苗	雑収入	生産苗	雑収入
上苗 三〇〇〇本(一〇厘) 中苗 二二〇〇本(六厘) 下苗 一五〇〇本(二厘) 小計 六七〇〇本	雑木見積 接根見積 小計	上苗 三〇〇〇本(一〇厘) 中苗 二二〇〇本(六厘) 下苗 一五〇〇本(二厘) 小計 六七〇〇本	雑木見積 接根見積 小計
二二〇〇〇	三三〇〇	一七五〇〇	一〇六〇〇
苗畑反別 一反歩	苗畑反別 一反六畝十五歩	苗畑反別 一反歩	苗畑反別 一反六畝十五歩
内 島村 三畝歩 魯桑 一反七畝歩	内 島村 三畝歩 魯桑 一反七畝歩	内 島村 三畝歩 魯桑 一反七畝歩	内 島村 三畝歩 魯桑 一反七畝歩
差引 益 一四六〇〇	差引 益 一四六〇〇	差引 益 一四六〇〇	差引 益 一四六〇〇

鹿足郡青原村 三浦金二郎		西伯郡夜見村 渡邊 岩市	
肥料代	人夫費	肥料代	人夫費
鶏糞・油粕・人糞尿 一本當一厘の割合	接苗男五〇人 整地男一〇〇人 伏込女一人 耕除草男一人 掘取男二人 荷造男四人	餅ノ粕二貫 或は大豆粕四五貫	接苗男女四〇人 整地男三人 伏込女三人 給水男五人 掘取男女六人 荷造男三人
175.00	100.00	100.00	110.00
150.00	100.00	100.00	110.00
生産苗	生産苗	生産苗	生産苗
10,000本 (11厘)	10,000本 (11厘)	上苗 10,000本(一錢) 中苗 10,000本(五厘) 下苗 10,000本(二厘) 小計 30,000本	上苗 10,000本(一錢) 中苗 10,000本(五厘) 下苗 10,000本(二厘) 小計 30,000本
110,000	110,000	110,000	110,000
苗畑反別 九反歩	苗畑反別 八反歩	苗畑反別 八反歩	苗畑反別 八反歩
内 接苗畑 七反五畝歩 島村 一六二の割合 赤桑 一六二の割合 實生苗畑 一反五畝歩 苗伏込距離 畦間一尺二寸 株間四寸 反當伏込本數 15,000本 販賣用	内 接苗畑 七反五畝歩 島村 一六二の割合 赤桑 一六二の割合 實生苗畑 一反五畝歩 苗伏込距離 畦間一尺二寸 株間四寸 反當伏込本數 15,000本 販賣用	内 接苗畑 七反五畝歩 島村 一六二の割合 赤桑 一六二の割合 實生苗畑 一反五畝歩 苗伏込距離 畦間一尺二寸 株間四寸 反當伏込本數 15,000本 販賣用	内 接苗畑 七反五畝歩 島村 一六二の割合 赤桑 一六二の割合 實生苗畑 一反五畝歩 苗伏込距離 畦間一尺二寸 株間四寸 反當伏込本數 15,000本 販賣用
110,000	110,000	110,000	110,000
差引 益	差引 益	差引 益	差引 益
110,000	110,000	110,000	110,000
計	計	計	計
150,000	150,000	150,000	150,000
接苗材料 其他雜費	接苗材料 其他雜費	接苗材料 其他雜費	接苗材料 其他雜費
150,000	150,000	150,000	150,000

(終)

大正五年七月廿四日印刷
大正五年七月廿七日發行

(非賣品)

島根縣立農事試驗場

松江市殿町二十九番地

印刷者 蒲生善之助

松江市殿町二十九番地

印刷所 蒲生活版所

(電話二百四番)



既刊臨時要報

第十四號	島根縣之蔬菜
第十三號	島根縣の栞と三極
第十二號	果樹と蔬菜と桑
第十一號	稻とふやまと病ひ
第十號	島根縣下の百合と山葵
第九號	島根縣之果樹園藝
第八號	大麻と杞柳栽培及加工
第七號	蒟蒻栽培と其利用法
第六號	八京美濃兩郡に於ける藺草
第五號	西田葛粉と出雲人參
第四號	稻作と湧出アンモニヤ水
第三號	所謂二倍增收稻作法
第二號	農家中行事
第一號	踏鋤之使用

1424
385

終